

科目名	スペイン語（入門・会話）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。

（入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語（総合）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。

（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。

講義概要

（入門）では、映像・音楽なども使いながら、簡単なスペイン語史、スペイン語圏の地理・歴史・文化に関するスペイン語の基礎用語を学ぶ。また同時に、（総合）の補いとして、基礎語彙の習得、基本構文の練習を担当者の用意するプリント・ビデオ教材などを使って行う。また、総合の進度にあわせて、確認の小テストをおこなう予定である。（会話）では、語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使って、会話練習をおこなう。

テキスト

「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する。

参考文献

スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。

辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（入門・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が 60 点未満の場合には、（入門・会話）二単位の評価は、不可となるので注意のこと。

科目名	スペイン語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。

（総合）は、スペイン語の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。

講義概要

教科書「オーラ・アミーゴス」および担当者の指定する教科書にそって、初級文法を半分まで進む。主な文法項目は、名詞と形容詞、冠詞、基本動詞の使い方、動詞直説法現在形の活用、点過去の活用である。

テキスト

「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

および、担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）

参考文献

スペイン語 - 日本語辞書を用意してもらう。

辞書については、最初の授業（入門）で説明するので、その後に購入していただきたい。

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。

科目名	中国語（入門）
担当者	阿 邊 淳

生活を作り出してください。
 年間計画
 （年間授業計画は総合と共通）

講義の目標

隣国中国とはどのような国なのかは、中学、高校の歴史や地理の学習を通してある程度の知識は持っていると思われます。これらを中国語の学習を通してさらに理解を深めていくことを目標とします。この授業では中国語の共通語に関する語学知識の基礎（“発音”、“読む”、“話す”、“聞く”、“書く”）を学びます。その中でも、とりわけ“聞いてわかる、自分も話せる”中国語を身につけるように努力してください。

講義概要

（１）“発音”では中国語の発音の特徴である４つの声調（トーン）の聞き分け、使い方をできるように学習します。さらに“ピンイン”という、ローマ字を借用した発音表記法の読み方と綴り方を学びます。中国語では特に発音の学習に重点をおきます。テープを良く聞いてまねてください。

（２）“読む”、“書く”では、“簡体字”という簡易化された漢字を含めて、３００～６００の基礎単語、いくつかの単文の基本文型、簡単な日常あいさつ用語などを学習します。

（３）総合と入門の３時限を連携し、同一教科書で進めていきます。

テキスト

入門・北京カタログ 相原茂著 朝日出版社

参考文献

辞書 小学館 中日辞典、 商務印書館 新華字典、
 大修館書店 中国語学習ハンドブック

評価方法

入門の成績は総合・会話両科目の成績の参考となります。

各回の授業における小テスト及び定期試験結果を基に評価します。もちろん発表や朗読など授業に取り組む態度も参考にします。

受講者への要望

過去６年間学習した英語でも十分力がついていると思う人は少ないでしょう。これから２～４年間中国語を学習してどれだけの力がつくかは想像がつくと思います。授業時間だけでは不十分です。ラジオ、テレビ、インターネットなども利用してください。さらに学校に準備してあるビデオやVCDの活用、留学生との交流などを通して常に中国語と接している

科目名	中国語 ・ （会話）
担当者	張繼瀛・秦敏

講義の目標

入門期においては中国語の発音に重点をおいて勉強します。その基礎のうえ、基本的語彙、文型に習熟し、口頭でいろいろなトレーニングをして行きます。中国語で簡単なコミュニケーションが流暢にできることを目標とします。

講義概要

聴く、話す能力を重視しますので授業ではなるべく中国語だけを使用します。

テキスト

入門・北京カタログ（中国文化、中国事情）

評価方法

出席と積極的な授業参加を前提とし、学期末試験および小テストにより総合的に評価します。

受講者への要望

予習、復習と積極的に参加することを希望します。

年間計画

第一回の授業中に説明します。

科目名	中国語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

隣国中国とはどのような国なのかは、中学、高校の歴史や地理の学習を通してある程度の知識は持っていると思われます。これらを中国語の学習を通してさらに理解を深めていくことを目標とします。この授業では中国語の共通語に関する語学知識の基礎（“発音”、“読む”、“話す”、“聞く”、“書く”）を学びます。中でも、とりわけ“聞いてわかる、自分も話せる”中国語を身につけるように努力してください。

講義概要

（１）“発音”では中国語の発音の特徴である４つの声調（トーン）の聞き分け、使い方をできるように学習します。さらに“ピンイン”という、ローマ字を借用した発音表記法の読み方と綴り方を学びます。中国語では特に発音の学習に重点をおきます。テープを良く聞いてまねてください。

（２）“読む”、“書く”では、“簡体字”という簡易化された漢字を含めて、３００～６００の基礎単語、いくつかの単文の基本文型、簡単な日常あいさつ用語などを学習します。

（３）総合と入門の３時限を連携し、同一教科書で進めていきます。

テキスト

入門・北京カタログ 相原茂著 朝日出版社

参考文献

辞書 小学館 中日辞典、商務印書館 新華字典、大修館書店 中国語学習ハンドブック

評価方法

入門の成績は総合・会話両科目の成績の参考となります。

各回の授業における小テスト及び定期試験結果を基に評価します。もちろん発表や朗読など授業に取り組む態度も参考にします。

受講者への要望

過去６年間学習した英語でも十分力がついていると思う人は少ないでしょう。これから２～４年間中国語を学習してでどれだけの力がつくかは想像がつくと思います。授業時間だけでは不十分です。ラジオ、テレビ、インターネットなども利用してください。さらに学校に準備してあるビデオやVCDの活用、留学生との交流などを通して常に中国語と接してい

る生活を作り出してください。

年間計画

第１回 中国語ガイダンス、漢字の形、音、義 これから学ぶ中国語とは（阿邊）

第２回 中国語ガイダンス、辞書の引き方（永田）

第３回 中国語ガイダンス、中国語の成り立ち（永田）

第４回 声調、単母音、複合母音

第５回 音節の成り立ち、子音

第６回 鼻音を伴う母音

第７回 第４課 声調の変化 音節の組み合わせと声調練習

第８回 発音の総まとめ

第９回 簡単なあいさつ

第１０回（総）第６課 「～は・・・です」を表す文とその疑問・否定文、連体修飾語の作り方

第１１回（総）第６課 repeat と文法

第１２回（入）第６課 復習読み練習、小テスト、第７課予習

第１３回（総）第７課 形容詞述語文、存在を表す文、その他の動詞

第１４回（総）第７課 repeat と文法

第１５回（入）第７課 復習読み練習、小テスト、第８課予習

第１６回（総）第８課 疑問文の作り方、可能・許可を表す助動詞、

第１７回（総）第８課 repeat と文法

第１８回（入）第８課 復習読み練習、小テスト、第９課予習

第１９回（総）第９回 動作のアスペクトを表す３つの助詞、“～した”、“～している”、“～したことがある”を表す文、数詞と量詞

第２０回（総）第９課 repeat と文法

第２１回（入）第８課 復習読み練習、小テスト、第１０課予習

第２２回（総）第１０課 北京市概況 第１１課予習

第２３回（総）第１１課 お金の言い方、さまざまな呼びかけ

第２４回（入）第１１課 復習読み練習、drill . 小テスト、第１２課予習

第２５回（総）第１２課 連用修飾語の作り方、方位詞

第２６回（総）第１２課 drill と文法

第２７回（入）第１２課 復習読み練習、小テスト、第１３課予習

- 第28回 (総)第13課 様態・程度を表す補語、
動詞の重ね型、自然現象文
- 第29回 (総)第13課 drillと文法
- 第30回 (入)第13課 復習読み練習、小テスト、第14課予習
- 第31回 (総)第14課 道を尋ねる、介詞
- 第32回 (総)第14課 drillと文法
- 第33回 (入)第14課 復習読み練習、小テスト、第15課予習
- 第34回 (総)第15課 介詞、動詞十
“一下”
- 第35回 (総)第15課 drillと文法
- 第36回 (入)第15課 復習読み練習、小テスト、
春学期まとめ

科目名	スペイン語（基礎表現・会話）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。

（基礎表現）では、（総合）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。

（会話）では、スペイン語（総合）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。

講義概要

（基礎表現・会話）:（基礎表現）は、（入門）の続きの授業である。（総合）の補いとして、基礎語彙の習得（2000語＋）、基礎構文の練習を、（入門）に引き続いて担当者が用意するプリント・ビデオ教材などを使って行う。また、簡単な解説文、物語を読むことで、読解力獲得の第一歩とする。また、総合の進度にあわせて確認テストをおこなう予定である。

（会話）では、基礎語彙を補いながら（総合）の進度にあわせた構文、動詞の活用を使った会話練習をおこない、能動的な聞く能力、話す能力の拡大を目指す。

テキスト

「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

そのほかの教材については、担当者が授業開始時に指示する

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。（基礎表現・会話）は、総合して成績とする。どちらかの授業での評価が60点未満の場合には、（基礎表現・会話）二単位の評価は、Dとなるので注意のこと。

科目名	スペイン語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

スペイン語は、スペイン語の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。

(総合)は、スペイン語の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。

講義概要

教科書「オーラ・アミーゴス」および担当者の指定する教科書にそって、初級スペイン語文法を終える。主な文法項目は、点過去、線過去、完了形、接続法の活用と使い方である。

テキスト

「オーラ・アミーゴス」(芸林書房)

および、担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）

評価方法

定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。

科目名	中国語（基礎表現）
担当者	阿 邊 淳

ラジオの講座や午後 1 時の中国語ニュース、テレビ講座、インターネットなども利用してください。さらに学校に準備してあるビデオや CD の活用、留学生との交流などを通して常に中国語と接している生活を作り出してください。

講義の目標

入門 に引き続き発音練習にも力を入れながら、短い例文を使ってさらに複雑な文法事項を学び、語彙を増やしていきます。初級中国語の総合的語学力（“発音”、“聞く”、“話す”、“読む”、“書く”）の完成を目指しながら、中国語を使って意思表示ができるレベルに到達することを目標におきます。

中国語の一部の漢字は日本語と同じで見ればすぐに意味がわかるものがあります。そのような単語でも聞き取ることはなかなか難しいものです。「聞いて分かる」、「発信できる」中国語を学ぶことを心がけてください。

講義概要

（１）総合的語学力の充実を図り、「中国語で自分の日常生活を語ることができる」、「中国語で自分の考えを伝達できる」、ことを目標にいろいろな表現を学びます。

（２）具体的に言えば、日本中国語検定協会が主催する「中国語検定 4 級のレベル」に達する 600～1000 語の単語を学びます。

（３）会話文のほかにある程度の長さの文章を読み語彙の増加を図ります。日常生活や自己紹介の文などであれば、暗記もさほどおっくうではないはずです。「発信型」人間になるためのきっかけとしては、「話せた!」、「通じた!」という感激を味わうことです。これは語学学習上の自信をつける面からも大きな意味があります。

（３）総合と入門の 3 時限を連携し、同一教科書で進めていきます。

テキスト

入門・北京カタログ 北京カタログ中国文化・中国事情 相原茂著 朝日出版社

参考文献

辞書 小学館 中日辞典、 商務印書館 新華字典、
大修館書店 中国語学習ハンドブック

評価方法

各回の授業における小テスト及び定期試験結果を基に評価します。もちろん発表や朗読など授業に取り組む態度も参考にします。

入門の成績は総合・会話両科目の成績の参考となります。

受講者への要望

科目名	中国語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

総合 に引き続き発音練習にも力を入れながら、短い例文を使ってさらに複雑な文法事項を学び、語彙を増やしていきます。初級中国語の総合的語学力（“発音”、“読む”、“話す”、“聞く”、“書く”）の完成を目指しながら、中国語を使って意思表示ができるレベルに到達することを目標におきます。

中国語の一部の漢字は日本語と同じで見ればすぐに意味がわかるものがあります。そのような単語でも聞き取ることはなかなか難しいものです。「聞いて分かる」、「発信できる」中国語を学ぶことを心がけてください。

講義概要

（１）総合的語学力の充実を図り、「中国語で自分の日常生活を語るができる」、「中国語で自分の考えを伝達できる」、ことを目標にいろいろな表現を学びます。

（２）具体的に言えば、日本中国語検定協会が主催する「中国語検定４級のレベル」に達する６００～１０００語の単語を学びます。

（３）会話文のほかにある程度の長さの文章を読み語彙の増加を図ります。日常生活や自己紹介の文などであれば、暗記もさほどおっくうではないはずですが、「発信型」人間になるためのきっかけとしては、「話せた!」、「通じた!」という感激を味わうことです。これは語学学習上の自信をつける面からも大きな意味があります。

（３）総合と基礎表現の３時限を連携し、同一教科書で進めて行きます。

テキスト

入門・北京カタログ 北京カタログ中国文化・中国事情 相原茂著 朝日出版社

参考文献

辞書 小学館 中日辞典、商務印書館 新華字典、大修館書店 中国語学習ハンドブック

評価方法

各回の授業における小テスト及び定期試験結果を基に評価します。もちろん発表や朗読など授業に取り組む態度も参考にします。

基礎表現の成績は総合・会話両科目の成績の参考となります。

受講者への要望

ラジオの講座や午後１時の中国語ニュース、テレビ講座、インターネットなども利用してください。さらに学校に準備してあるビデオやＣＤの活用、留学生との交流などを通して常に中国語と接している生活を作り出してください。

年間計画

第１回 第１６課 禁止の表現、結果補語、「もうすぐ～する」を表す文

第２回 文法のポイントと drill

第３回 復習読み練習、小テスト、第１７課予習

第４回 第１７課 可能補語〔動詞＋得／不＋結果補語・方向補語〕、前置詞“把”の用法、「少しも～でない」を表す文

第５回 文法のポイントと drill

第６回 復習読み練習、小テスト、第１８課予習

第７回 第１８課 複雑な方向補語、仮定を表す文、形容詞・動詞を並列する文

第８回 文法のポイントと drill

第９回 復習読み練習、小テスト、第１９課予習

第１０回 第１９課 「～の他に・・・だ」、「～だけでなく、・・・もまた」を表す文、比較を表す文

第１１回 文法のポイントと drill

第１２回 復習読み練習、小テスト、第２０課予習

第１３回 第２０課 “是～的”の強調構文、選択疑問文

第１４回 文法のポイントと drill

第１５回 復習読み練習、小テスト、２冊目北京カタログ文化・事情予習

第１６回 第１課 課文の読みと訳

第１７回 第１課 課文の読みと訳

第１８回 復習読み練習、小テスト、会話１，２

（「自転車王国」は最後に読みます）

第１９回 第２課 課文の読みと訳

第２０回 第２課 課文の読みと訳

第２１回 復習読み練習、小テスト、会話、drill

第２２回 第３課 課文の読みと訳

第２３回 第３課 課文の読みと訳

第２４回 復習読み練習、小テスト、会話、drill

第２５回 第４課 課文の読みと訳

第２６回 第４課 課文の読みと訳

第２７回 復習読み練習、小テスト、会話、drill

第２８回 第５課 課文の読みと訳

第２９回 第５課 課文の読みと訳

第３０回 復習読み練習、小テスト、会話、drill

第３１回 第６課 課文の読みと訳

第３２回 第６課 課文の読みと訳

第33回 復習読み練習、小テスト、会話、drill

(「同じようなアパート」は最後に読みます)

第34回 第7課 課文の読みと訳

第35回 第7課 課文の読みと訳

第36回 復習読み練習、小テスト、会話、drill

秋学期まとめ

科目名	スペイン語（総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。

講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。

講義概要

担当者が指定する中級用の教材を用いて、その文法項目にそって授業を進める。表現力を養うため、作文に力を入れる。

講読の授業では、教科書用書き直された、平易なスペイン語の物語、評論などを中心に輪読する。この授業では特に予習が不可欠である。

テキスト

総合：担当者指定の教科書 4月に教科書売場で確認の上購入のこと。

講読：担当者指定の教材 プリントなど。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。総合・講読それぞれの担当者のうち、いづれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	スペイン語（会話・LL）
担当者	各担当教員

講義の目標

（会話）の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。

（LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。

講義概要

（会話）の授業では、中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。

（LL）の授業では、Viaje al españolの第一部から第三部半ばまでを順を追って進めていく。第一部については、比較的平易で復習的内容になることが多いが、場面設定にあわせた聞き取り能力の確認の場とする。

テキスト

会話：担当者指定の教材

LL：プリントを用意する。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いずれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	中国語（総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

中国語の習熟を条件にさらにレベルアップを図る。「会話・LL」クラスと連携して、実用能力を養成する。また長文読解を通じて辞書、参考書、資料の効率的な利用を紹介する。

講義概要

週 2 コマ開講。日常会話からあるていどまとまった内容のある会話能力の養成を目指す。十分習熟するため予習を重視し、期間中に小テストを行う。また文学作品、時事資料なども利用して長文読解能力を高める。

テキスト

『新中国語 2』、『新中国語 3』北京語言学院編 中華書店 各 1000 円。なお後期以降もこの教科書を使用するので、同シリーズの第 4 巻も購入しておくことよい。

参考文献

使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼ねな中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）

参考図書：『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円

年間授業計画

週	教科書	内容
1	37・38 課	
2	39・40 課	
3	41・42 課	
4	43・44 課	
5	45・46 課	
6	47・48 課	教科書目次順
7	49・50 課	
講読については教材を配布する		
8	51・52 課	
9	53・54 課	
10	55・56 課	
11	57・58 課	
12	総合復習	
13	総合テスト	

科目名	中国語 ・ （会話・L L）
担当者	張繼濱・秦敏

講義の目標

本课的目标是提高学生们的听说能力。

通过一年的学习能比较准确、流利地用中文叙述一些日常生活中的事情。如：介绍自己的情况、自己的家庭、爱好等。

讲述一些自己的想法及发生在自己的周围的事情等。

同时、也学习一些有关中国的情况、中国人的风俗习惯、思想方法以及近年来的国情变化等。

講義概要

课基本用中文进行。除了解解决课本内的疑向外、还将教词语的正确选择和应用及一些近义词的微妙区别等。有时、按照语法重点和词汇句型重点。老师和学生进行对话练习、有时进行小组会话练习或者 Short Speech 的叙述练习。

テキスト

北京カタログ

評価方法

出席、考試及课内的参与综合评价。

受講者への要望

希望学生们复习、预习、完成作业、课内积极发言。

年間計画

第一次课时詳細説明。

科目名	スペイン語（会話・LL）
担当者	各担当教員

講義の目標

（会話）の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。

（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、に引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。

講義概要

（会話）の授業では、中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、論議を定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。

（LL）の授業では、Viaje al españolの第三部半ばから、第五部までを順を追って進めていく。第五部はかなり高度になるが、できる限り第五部まで進むことを目標とする。

テキスト

会話：担当者指定の教材

LL：プリントを用意する。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いづれかが60点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	スペイン語（総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

総合の授業では、より高度な文法事項とともによく使われる言い回しを扱い、表現力の増強を目的とする。冠詞、形容詞、再帰動詞、二つの過去形、接続法、関係詞など既出の文法事項についても補いの説明をし、中級文法を終える。

講読の授業では、スペイン語圏で通常読まれている物語・小説、評論、新聞記事などを用いて、読解力の養成を行うとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。

講義概要

総合の授業では、中級用の教材を用いてその文法項目にそって授業を進める。表現力を養うため、作文に力を入れる。

講読の授業では、平易ではあるがスペイン語圏で普通に読まれている物語、評論などを輪読する。

テキスト

総合：担当者指定の教科書 前期と同じ教材を用いる。

講読：担当者指定の教材 プリントを用意する予定である。

評価方法

平常点、期末テストなどで総合的に評価する。担当者によっては小テストも随時おこなう。

この授業は、二コマで一つの成績となる。それぞれの担当者のうち、いづれかが 60 点未満の成績をつけたときには、二コマとも不可となるので注意していただきたい。

科目名	中国語（会話・LL）
担当者	各担当教員

講義の目標

「総合」クラスと連携して、レベルアップを図る。とりわけ各種表現、それをを用いた作文、スピーチ、挨拶表現などを学ぶ。中国語においては慣用表現、四字成句などが重要であり、さらに知識を充実する。

講義概要

「会話」を各週1コマ開講。「LL」では特に聞き取り、口頭での各種表現の習熟を図る。「会話」では、中国人教員によって日常会話を含め、より高度な会話、スピーチ、挨拶表現などを反復練習し、その表現、リズムを体得する。

多少の中国事情講義をまじえながら、実際の会話に対応できる学力を目指し、「総合」クラスの進行に合わせて各種表現の教材を適宜配布する。「会話」では「総合」クラスの進行に合わせて、対応する会話教材を配布する。

テキスト

『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200円を使用する他、適宜教材を配布する。「会話」については追って指示する。

参考文献

使用辞書：『中日辞典』小学館 6796円（小型で兼備な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）『日中辞典』小学館。

科目名	中国語（総合・講読）
担当者	各担当教員

講義の目標

中国語・・・の習熟を条件にさらにレベルアップを図る。「基礎表現・会話」クラスと連携して、実用能力を養成する。また長文読解を通じて辞書、参考書、資料の効率的な利用を紹介する。

講義概要

週 2 コマ開講。日常会話からかなりまとまった内容のある作文能力の養成を目指す。十分習熟するため予習を重視し、作文を重視する。

テキスト

『新中国語 4』北京語言学院編 中華書店 各 1204 円。なおその後もこの教科書を使用するので、同シリーズの最終巻の第 5 巻も購入しておくといよい。

参考文献

使用辞書：『中日辞典』小学館 6796 円（小型で兼備な中日辞書もあるが、すぐ使えなくなるので、この辞書を買うこと）

参考図書：『中国語学習ハンドブック 改訂版』大修館 2200 円

年間計画

週	教科書	内	容
1	59 課		
2	60 課		
3	61 課		
4	62 課		
5	63 課		
6	64 課	教科書目次順	講読については教材を配布する
7	65 課		
8	66 課		
9	67 課		
10	68 課		
11	69 課		
12	70 課		
13	総合テスト		

科目名	英語（総合英語）
担当者	K . ミーハン

20. Assisted Suicide
21. Debate
22. Open Topic
23. Test
24. Test

講義の目標

The aim of the course is to develop the necessary skills for discussion. Each class will allow students a chance to give their opinions and to discuss them with others.

講義概要

The topics for discussion will be wide and varied, ranging from domestic to international, political to social, and controversial to mainstream.

テキスト

Students will be provided with all materials. No textbook is required.

参考文献

The topics will be chosen from current affairs magazines (i.e. Times), newspaper editorials, and journals.

評価方法

Final grade will be attendance (50%) class participation (25%) and tests (25%).

受講者への要望

Students will be required to read articles before class and be prepared to discuss them.

年間計画

1. Introductions
2. Mass Media
3. Life styles
4. Religion
5. Politics
6. Japan
7. Debate
8. Capital Punishment
9. 20th Century
10. U.S.A. / Japanese Relations
11. East vs West
12. Population Control
13. Native Peoples
14. Debate
15. Drugs
16. 21 Century
17. Animals Rights
18. Drinking / Smoking
19. Education

科目名	英語（総合英語）
担当者	M . A . シブル

講義の目標

The goal of the course is to help students communicate effectively in spoken and written English. The primary aim will be on improving listening and speaking understanding natural adult speech used in lectures, in business and at social gatherings and other language skills needed to study overseas and for success in business and the professions. If necessary, selection of students will be made during the first week of classes.

講義概要

Class time will be spent in drills, pair practice and discussions to improve comprehension and fluency using audio and videotape from newscasts, drama, comedy and documentaries. Articles from well-known English language magazines and newspapers will be used to learn more about the culture, expand vocabulary and for a better understanding of English usage. Students will have the chance to suggest subjects and material based on their interests. The methods, drills and difficulty of the materials will be determined by the English ability of the students. Mr. Durham, who teaches the Wednesday class, and I will select the teaching material and develop the lesson plans together. Only one mark will be given for the course.

テキスト

Text to be announced.

Prints and tapes supplied by the instructor.

参考文献

Please bring to class a paperback edition of a dictionary for native adult speakers of English. I recommend any of the following:

The Merriam-Webster Dictionary, *The American Heritage College Dictionary* or *The Random House Dictionary of the English language*.

評価方法

Grades will be based on preparation, active participation during the classes, attendance, quizzes, and the term and final presentations.

受講者への要望

Perhaps the most important point in acquiring a

language for an adult is taking responsibility for learning. Students therefore should carefully prepare for and actively participate in every class.

年間計画

1. Orientation covering goals, methods and standards for evaluation

Selection of students and introduction of first topic for discussion

2. Pair practice: "Goals how I plan to improve my English"

The holidays American students' "Golden Week"

3. Pair practice, continued

Introduction, viewing and discussion of video presentation

4. Research and discussion: "Canada or Australia where do we get the most for our money?"

5. Research and discussion: "Canada or Australia where do we get the most for our money?" continued

6. Viewing and discussion of U.S. newscast; listening & pair practice: from National Public Broadcasting's "The News Hour"

7. Viewing and discussion of U.S. newscast, continued

8. Introduction: TV drama "Northern Exposure"

9. Holidays Independence Day

Orientation for student presentations

10. Student presentations

11. Student presentations

12. Discussion and evaluation of presentations

13. Research and discussion project: "Survival for the Japanese College Graduate in the New Economy"

14. TV drama "Northern Exposure" continued

15. Pair practice & listening practice: subjects from NPB's "The News Hour"

16. Research and discussion: "Getting Ahead in the New Economy"

Building vocabulary "Jargon and Buzzwords"

17. Research and discussion: "Getting Ahead in the New Economy" continued

18. TV comedy: "Family Ties" - viewing and discussion

19. TV comedy: "Family Ties" - viewing and discussion

20. The holidays - Christmas, Chanuka and Kwanza

21. Orientation for student presentations
22. Student presentations
23. Student presentations
24. Discussion and evaluation of presentations

科目名	英 語 (総合英語)
担当者	R . ダ ラ ム

講義の目標

This course will focus on building understanding of different Cultures, festivals, and countries, through use of Modern English conversation. Students will be asked to ACTIVELY participate in understanding and using APPROPRIATE English and styles for interacting with foreigners from various countries. Videos and song listening exercises may be used to improve listening, vocabulary, and cultural awareness. Modern English will be emphasized not “Wasei Eigo”.

講義概要

Student participation is a MAJOR component of the course. Students will be invited and challenged to provide interesting and culturally suitable responses and reactions to a variety of English situations, questions, songs, videos, newspaper articles, and festivals. International awareness and knowledge are the ultimate goals.

テキスト

A textbook may be decided upon, after meeting with students and assessing student needs and desires.

評価方法

Attendance: 20% (2 later = 1 absence; more than 20 minutes late = absent); Participation: 20%; Assignments and Quizzes: 20%; and Examination(s): approx. 40%

受講者への要望

Please don't be late or absent: you will fail! In this class, ACTIVE participation is needed. You should have an open mind: different English expressions, and different Cultures will be studied.

年間授業計画

- 1 . Introductions, in English: avocation; work / study place; and location. Video and / or song listening exercise. NOTE: This syllabus may be changed to better suit student needs.
- 2 . Review of Introductions. Use of future tense: hope to; like to; going to; plan to; and will. Travel video and imagining / planning a trip there.
- 3 . Review, future tense. Song / video listening

exercise. Cultural gaffes. Talking about hobbies. “How are you?” + pair practice.

- 4 . Review. Brief speaking quiz. Gearing up for research into Study Abroad / Working Holiday Visa. “Which country would you like to visit? Why? Itinerary?”
- 5 . Review. Re-writing exercises. Travel video and use of imagination / visualization. “What’s it like, there?” Conversation pairwork.
- 6 . Review. “Have you ever ?” + Culturally-appropriate responses. Pairwork. Travel video and / or song cloze exercise, and / or News articles.
- 7 . Review. Internet research about destinations. “What can you see and do in ? + pair practice.
- 8 . Review. Brief speaking quiz. Song cloze exercise and / or video exercise. Discussion of foreign festivals whenever appropriate.
- 9 . Review. ‘Origins’: where...from; where...born; where...grow up; where...live now? Video or song exercise. Preparation for presentation, re: chosen country.
- 10 . Review: Preparation for examination. News/ Travel video, with discussion. Song Cloze exercise.
- 11 . Review / Exam. Questions, re: other Cultures, Food; activities. If time permits: video / song exercise, and / or News articles.
- 12 . Discussing Summer activities; with pair practice. English re-writing exercises. “How was your ?”
- 13 . Research into foreign festivals, especially Halloween, the Rio Carnival and so on. Videos and song-listening exercises. Street directions and pair practice.
- 14 . Review, street directions. Practice in pairs. Video / song exercise. Commencement of research into Second-Semester presentation.
- 15 . Presentation focusing. Subway & Train ‘directions’: explaining and understanding how to get there. Video and / or Song exercise.
- 16 . Review, train directions; pair practice. Video and / or song exercises. “What kind of do you like?” + pair practices.
- 17 . Review, street directions. Festivals: Halloween, Christmas, holidays. “ is a time when...” Pair practice.
- 18 . Review. Short quiz. Guessing / Prognosticating.

Video / song exercise. English re-writing.

19 . Review. News video and discussion, followed by pair discussion. Song cloze exercise.

20 . Review. "Can you recommend a good place to ?":finding stores / services in an unfamiliar city. Pair practice. Song / video exercise.

21 . Review. Cultural misunderstandings. "Who accomplished it?": important discoveries and developments in history. Presentations.

22 . Review. Short speaking quiz. Preparation for examination. Presentations. Discussion.

23 . Examination(speaking) and / or presentation(s).

24 . Note: This syllabus is tentative and may change, depending on festival timing; video availabilities; student and teacher interests, and so on.

科目名	英 語 （総合英語）
担当者	W . J . ベンフィールド

講義の目標

1. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing.
2. To consolidate and extend the knowledge and command of English grammar.
3. To consolidate and build vocabulary for use in general contexts.
4. To use material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English.

講義概要

The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.

テキスト

The main course book will be "New Headway English Course," (Intermediate Student's Book), Liz and John Soars, Oxford University Press.

参考文献

None

評価方法

Final grades will be given on the bases of: examination results at the end of each semester; grades for written assignments; attendance; and active participation in classroom activities.

年間授業計画

- 1a. Course explanation. Course book unit 1:The modern world
- 1b. Extension and practice
- 2a. Course book unit 1 continued
- 2b. Extension and practice
- 3a. Course book unit 2:Sport and leisure
- 3b. Extension and practice
- 4a. Course book unit 2 continued
- 4b. Extension and practice
- 5a. Course book unit 3: Writing, painting and music
- 5b. Extension and practice
- 6a. Course book unit 3 continued
- 6b. Extension and practice

- 7a. Course book unit 4:Cultural comparison
- 7b. Extension and practice
- 8a. Course book unit 4 continued
- 8b. Extension and practice
- 9a. Course book unit 5:Holidays
- 9b. Extension and practice
- 10a. Course book unit 5 continued
- 10b. Extension and practice
- 11a. Course book unit 6:Food
- 11b. Extension and practice
- 12a. Course book unit 6 continued
- 12b. Mid-year examination
- 13a. Course book unit 7:Work
- 13b. Extension and practice:
- 14a. Course book unit 7 continued
- 14b. Extension and practice
- 15a. Course book unit 8:Money
- 15b. Extension and practice
- 16a. Course book unit 8 continued
- 16b. Extension and practice
- 17a. Course book unit 9:Families and relationships
- 17b. Extension and practice
- 18a. Course book unit 9 continued
- 18b. Extension and practice
- 19a. Course book unit 10:Habits
- 19b. Extension and practice
- 20a. Course book unit 10 continued
- 20b. Extension and practice
- 21a. Course book unit 11:Questions and answers
- 22b. Extension and practice
- 22a. Course book unit 11 continued
- 22b. Extension and practice
- 23a. Course book unit 12:Birth, marriage and death
- 23b. Extension and practice
- 24a. Course book unit 12 continued
- 24b. Final examination

科目名	スペイン語（総合）
担当者	各担当教員

講義の目標

新聞記事、雑誌記事・論文、評論、小説などスペイン語圏で通常流通している書かれた文章の内容把握およびテレビニュースなどの聞き取りをおこない、内容を日本語とスペイン語で要約する力を養成することが第一の目的である。さらに内容に関して、自分の意見をスペイン語で表現できる能力の養成にもつとめたい。

講義概要

日本人担当者は、主に講読を担当する。内容把握は、その背景を知ることが不可欠である。正しい内容把握ができるよう、語彙、構文に関する説明だけではなく、その背景についても受講生自ら調べるよう指導したい。なるべく多様な分野に関する教材を用意し、精読するだけでなく、長文の概要把握にも挑戦させる。外国人担当者は、できるだけスペイン語のみで授業をおこなう。担当講師の用意する教材に基づいて、内容把握だけでなく、内容に関する意見表明、論議をスペイン語で行わせたい。

テキスト

各担当者が指定する教材あるいはプリントを用意する。

参考文献

各担当者が指示する。

評価方法

平常点のほか、小テストおよび期末テストで総合的に評価する。担当者二人で一つの成績をだすことになる。いずれかの担当者の評価が60点以下の場合、成績はDとなる。

受講者への要望

授業での積極的発表、発言が重要である。各時間を有意義に使っていただきたい。

科目名	中国語（総合）
担当者	各担当者教員

講義概要

中国社会・文化に関する中国語資料を使い、辻は精読、孫は中国語によって解説する。

テキスト

教材配布

参考文献

天児慧『中華人民共和国史』岩波書店

評価方法

期末テスト

学生への要望

予習を重視し、複数の辞書・参考資料を利用する。

年間授業計画

進捗状況によって決定する。

科目名	ボランティア論
担当者	青柳多恵子

講義の目標

ボランティアは西洋キリスト教思想の慈善型の奉仕精神による、一方通行的な無償性の奉仕を基本としていた。産業革命を境に、社会構造の変革に伴う人々の意識の変化が、個人的なボランティアを組織的・継続性が求められるはじめ、ボランティアの原義である自発性〔自主性〕無償制（無給性）・社会性（公益性）が時代の思想的・構造的変化と相まって大きく変化してきた。ボランティア活動の理解はもとより、活動の意義とその必要性を現代文化や科学の発展と同様に行動文化として、その動向と意義を解明し実践していくことを目的とする。

講義概要

ボランティアの歴史の変遷と社会状況の変化との関連について検索し、人間の本质ともいえる助け合い・分かち合いとは強者が弱者に与えるものではなく、人は自分自身が困っているときにさえ、自分にできる範囲で他の人を助ける優しい気持ちを持っている。産業社会と人間の生活や、人としての本来の生き方である、人間の思いやりや愛情の伝達と人が持つ善意をボランティアという行為によって表現し活用する意義について認識し、ボランティアそのものの量的、質的な関心と参加する事の基本的な見直しと、組織的な協力関係や今や団体のマネジメント能力の確保もこの学問領域といえる。

受講者への要望

国際的視野に立って考えられる、

年間授業計画

1. ボランティアの歴史の変遷とその精神
2. 世界的活動組織としてのNPO, NGOのボランティア活動の現状（外来講師）
3. ボランティアの基本的コンセプト
4. ボランティアの理解と実践について（外来講師）
5. 恵みとしての扶助・一方通行的な援助としてのボランティア
6. 日本でのボランティアの現状と取り組み
7. 世界的ボランティアの現状と日本人の意識について（鳥谷部）
8. 現代社会におけるボランティアの必要性和認識（鳥谷部）
9. A・課題発表
10. B・課題発表

科目名	現代世界論
担当者	有吉 広介

講義の目標

現代の国際化時代に必要なグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標にする。この講義では経済学部の田村申一・桑原靖夫・千代浦昌道の3教授、外国語学部言語文化学科の有吉広介、辻康吾の2教授と佐藤勲治助教授がオムニバス形式で、それぞれ異なる視点から世界の諸現象を講義し、現代世界の多面的な理解をはかる。

講義概要

まず、21世紀世界のボーダーレス状況を認識するために、経済のボーダーレス現象がみられる「世界の金融市場」と、社会のボーダーレス現象の一つ、いわゆる「外国人労働者」の問題にふれる。次に、国際社会の古くて新しい問題である「南北問題」を現代のメキシコ社会にみる。さらに奴隷貿易、植民地支配、そして内戦や紛争に苦しんできたアフリカ人の歴史を論じる。ついで、改革開放政策や経済建設で大成功を収めた中国が、今後の国際関係において、特に対日関係において行使する影響力を分析・検討する。最後に、人口の高齢化状況に関連して、いくつかの国における高齢者の生活および意識と、その文化との関係を比較検討する。

テキスト

随時資料を配布する。

参考文献

桑原靖夫「国境を越える労働者」(岩波書店)、同著「あなたの隣人外国人労働者」(東洋経済新報社)など。講義時に紹介するものがある。

アフリカ論に関しては、小田英郎他著「アフリカ第2版」(国際ベーシックシリーズ、自由国民社、1999)および伊谷純一郎・織田英郎・田中二郎・米山俊直共同監修「アフリカを知る事典 改訂版」(平凡社1999)

中国論を聞くに当たっては天児慧「中華人民共和国史」を通読しておくこと。

評価方法

前後6回のレポートの総合評価

学生への要望

多面的にサブ・テーマを設定したので、必ず出席し、講義の要点をよく把握すること。

年間授業計画

1. グローバルな市場経済では、巨額なおかねが世界

的な投機に使われ、一国の政治・経済を揺るがせている。その主役、ヘッジファンドのデリバティブ取引の実態をのぞいてみる。

2. グローバルなマネー市場では、市場同士の競争も激しい。市場の競争力強化と市場の暴走抑制が必要となる。日本の金融ビックバン、アジアの金融危機対応を例として考えてみる。
3. グローバルな世界経済の下、労働力は国境を越えて移動する。しかし不法入国者の急増、経済危機下に強制送還される労働者、母国に戻れない労働者など新たな問題が生まれる。
4. 21世紀に向けて日本は、アジアや南米諸国との関係でいかなる立場に立ち、そして多様化する国際労働力移動の流れにいかに対応すべきなのかを、世界潮流に即して理解したい。
5. 観光、組み立て産業、麻薬密輸、不法移民など様々な側面をもつメキシコの国境都市・ティファナに、先進国・アメリカ合衆国と発展途上国・メキシコの文化交流の歴史をみる。
6. 合衆国の圧倒的な影響の下にメキシコ北部においていかにメキシコ性が形成されてきたかという問題を歴史的に追う。
7. 大戦後西欧諸国の植民地支配から脱したアフリカ諸国が、どのような政治的変遷をたどったか、そして南アの人びとがいかにして白人支配から民主化を勝ち取ったかをみる。
8. 現代にアフリカの経済と社会の背景にある過去の奴隷貿易と植民地支配の歴史にふれた後に、独立後のアフリカ諸国の経済と社会の変遷とさまざまな問題について講義する。
9. 近代化政策をとる中国の対外関係のビヘイビアを分析する。
10. そのビヘイビアが具体的にいかなる政策として現れているかを検討する。
11. 高齢者の生活と意識に関して総務庁が国際比較調査を4回おこなった。この調査の結果を中心にして日本、アジア諸国、そして欧米諸国の高齢者の生活の特徴を比較する。
12. 日本、アジア諸国、そして欧米諸国の間にある高齢者の生活と意識の違いがそれぞれの文化と深く関係することを説明する。

科目名	言語文化概論
担当者	下川 浩

講義の目標

外国語学部共通の教育目標は、特定の外国語の学習を通じて、そ（れら）の外国語の話される共同体の文化と社会構造を、日本語および日本の文化・社会構造と対照しつつ、知ることである。その際、言語と文化すなわち生活・行動・思考の様式とは相互に密接な関係にあるということが、自明のこととして前提とされている。本講義の目的は、この前提、すなわち言語と文化の相互関係を概括的に論じることである。

講義概要

言語と文化すなわち生活・行動・思考の様式との相互関係を見るにあたり、当然それらの担い手・主体である民族を中心にすえる必要がある。けれども、同じ（ような）言語を話し、同じような生活を営み、同じように行動し、思考する人々を民族ということについては、今日、事実と理論の両面から疑問が生じている。人々が出会い、ふれ合い、共同の生活を営む中で、共通の言語と文化が形成される。しかし、生活環境の変化により移動を余儀なくされ、移動がかなわぬようになったのちには、たがいの生活領域と手段を奪い合うことによって、今日のように民族・言語・文化が多様化したのである。民族紛争・国際紛争を言語と文化の側面から見ていく。

テキスト

未完成。（マルチメディア教材使用。獨協大学ホームページ・授業のページ参照）

参考文献

- 高崎通浩『改訂版世界の民族地図』（作品社）
 マイクロソフト『エンカルタ百科事典 2000』
 日立デジタル平凡社『世界大百科事典』
 マクミラン『エンサイクロペディア・オブ・ワールド・カルチャーズ』
 小学館『日本大百科全書』
 コムリー他編『世界言語文化地図』（東洋書林）
 R.E.アシャー他編『世界民族言語地図』（東洋書林）
 恵谷 治『世界危険情報大地図館』（小学館）
 下川 浩『現代日本語構文法』（三省堂）ほか

評価方法

随時レポートを課し、各自の実績にもとづく自己評価を基本にしたい。

受講者への要望

「講義という形をとった伝え合いを通じ、話し合いのしかたが学べるように、積極的に質問や意見発表をしてもらいたい。

年間授業計画

1. 人と人が出合うとき、ふれ合いと伝え合いが起こる。伝え合い（コミュニケーション）とはどういうものか。
2. 伝え合いにはコトバによるものとよらないものがある。コトバによる伝え合いはコトバによらない伝え合いとどう違うのか？
3. コトバによる伝え合いの手段であるとともに産物である言語とはどういうものか？
4. 世界には、どんな言語がどのように分布しているか？
5. 人種・語族・民族という概念の共通点と相違は？
6. 民族は歴史的にどのように形成されてきたか？
7. 文化はどのように形成されてきたか？日本文化とは？
8. 宗教はどのように人々の生活・行動様式と関係し合うのか？
9. 「民族紛争」と「少数民族」の問題をどのように考えるべきか？
10. 平和で豊かな国際社会を築くための伝え合いと関わり合いとは？
11. コトバは事柄をありのままに表現することができない。ウソとコトバの魔術の違いとは？
12. ふれ合い（社会的相互行為）と伝え合いの原則とは？

（以上は予定であるから、講義の展開により、多少のズレ・変更がありうる。）

科目名	比較思想概論
担当者	松丸 壽雄

講義の目標

日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。

講義概要

東洋思想と西洋思想とを比較検討する。東洋思想としては、インドのウパニシャッド哲学、ジャイナ教思想、仏教思想、中国の易経などの古代思想、儒教（朱子学等の宋学も含む）、日本では神道、儒学思想、国学思想、日本近代の哲学思想を概観する。西洋思想としては、キリスト教思想（イスラム思想にも触れる）、ドイツ観念論、実存思想、フランスの現象学的思想などに触れる。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に適宜指示。

評価方法

レポートの内容により評価。

受講者への要望

講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。

年間授業計画

1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。
2. 比較思想の歴史と方法（1）
3. 比較思想の歴史と方法（2）
4. インドの思想（1）
5. インドの思想（2）
6. 中国の思想（1）
7. 中国の思想（2）
8. 日本の思想（1）
9. 日本の思想（2）
10. 西洋思想（1）
11. 西洋思想（2）
12. 東洋思想と西洋思想の比較・検討。

科目名	日本文化論
担当者	小島幸枝

講義の目標

日本文化の諸様相とその特質、および問題点を 16、7 世紀（大航海時代）のキリシタン資料の実証的研究を通じて明らかにしたい。従ってヨーロッパ文化との比較研究の特徴をもつ。

講義概要

大航海時代の日本学は、ヨーロッパ人は第三者の視点で、当時の日本の政治状況、経済状態、文化、思想、宗教、生活、風俗に関して、客観的かつ具体的に記述したものである。これを紹介しつつ、現代と（時には古代日本にも目を向けながら）比較して日本文化の特質を確認していきたい。ビデオテープ（45 分もの）を援用する。

テキスト

日本史小百科『キリシタン』（東京堂出版）

参考文献

大航海時代叢書（岩波書店）
 フロイス『日本史』全 12 巻（中央公論）
 フロイス『日本史』全 5 巻（東洋文庫）平凡社
 『探訪 大航海時代の日本』全 8 巻（小学館）

評価方法

レポート

受講者への要望

出席を重視する

年間授業計画

1. 日本の特徴と日本文化（地理的環境と日本民族）
2. 日本史の歴史（外来文化との接触交流面からみた）
3. 大航海時代 1 - イエズス会来日と日本研究に至るまで
4. 大航海時代 2 - イエズス会の日本研究
5. 大航海時代 3 - その文献資料の様相
6. 日本人男性の風貌と衣服について
7. 日本人女性の風貌と衣服について
8. 日本人の食事と飲酒の作法
9. 日本の宗教（坊主、ならびにその風習、葬礼、寺院、その宗派の信仰について）
10. (ビデオ鑑賞) - 永平寺の修行
11. (ビデオ鑑賞) - 比叡山千日回峰
12. 日本の病気、医者、および薬について
13. 日本の劇、舞踊、歌、および楽器について
14. ビデオ鑑賞 - 能
15. ビデオ鑑賞 - 狂言

16. 日本語 - 書記言語としての往来物
17. 日本語 - 口頭言語としての敬語法
18. 国の成立（神話にみる日本誕生）
19. 日本の国土
20. 日本人の習慣と価値観
21. 日本人の習慣と価値観
22. 日本の家屋 - (ビデオ鑑賞) 合掌造の屋根葺かえ
23. 日本人の死生観
24. 日本の心の美学 (ビデオ鑑賞) 忠臣蔵

科目名	日本語研究概論
担当者	城田 俊

講義の目標

新しい日本語学は言語学の基礎の上に構築する必要がある。講義では言語学の初歩的知識をやさしく説明し、それを出発点にして日本語を眺めると、音声、文法、語彙の水準においてどのような構造・組織・体系が見出されるかを綿密にとく。

講義概要

新しい言語学の出発点となったソシュールの学説を紹介し、それを発展させていったトルベッコイ、ヤコブソン等々の理論を解説する。「構造」の概念の理解のために重要な音韻論の基礎知識を伝え、その上で日本語の子音体系、母音体系を解明し、基本体系と第二体系の差を説明する。言語（ひいては日本語）がなぜ変化するのか、駆動力は何かを考察する。文法論の分野では文法カテゴリーの言語学的定義を把握し、日本語にはいかなるカテゴリーが存在し、いかなる形態によって表現されているかを観察する。意味論、語彙論の分野では語彙函数の理論を説明し、日本語のコローション面に注意を払い、語彙力・文章力の涵養に努める。

テキスト

必要な場合プリントして配布する。

参考文献

- トルベッコイ 『音韻論の原理』（長嶋 善郎 訳・岩波書店）
『ロマーン・ヤコブソン選集』1・2（大修館書店）
城田 俊 『日本語の音』（ひつじ書房）
城田 俊 『日本語形態論』（ひつじ書房）
城田 俊 『言葉の縁 - 構造語彙論の試み』（リベルタ出版）

評価方法

定期試験期間中に試験を行う。

出席および授業への参加態度を考慮する。

受講者への要望

シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。授業中受講者に質問することがある。授業への積極的参加が望まれる。

年間授業計画

1. コードとメッセージ、ラングとパロルの区別。コードとメッセージの諸関係。引用、固有名詞、語釈

話法、人称代名詞。

2. 通時言語学と共時言語学。通時的日本語研究と共時的日本語研究。共時的日本語研究の優位性。共時態から通時態へ。
3. /a/の前にある日本語の子音、子音組織の解明方法。調音点、調音方法、無声性（清音）、有声性（濁音）、非口蓋化性（直音）、口蓋化性（拗音）等の理解。
4. /a/の前の子音の体系の分析。音素とは弁別の特徴の束である。ヒュームの人間の定義(a man is a bundle of a different perceptions)との相似。
5. 子音音素認定の手続き。子音音素体系。/e/の前にある日本語の子音。「中和」、archiphoneme（原音素）とは何か。音素から弁別素性へ。
6. 母音音素認定の手続き。母音音素体系。音声学と音韻論。
7. 基本体系と第二体系。日本語の音節体系の発展。通時態は共時態の中にある。通時と共時の和解。構造的要因。構造主義について。
8. 形態論。文法カテゴリーの研究（1）。動詞の文法カテゴリー。《性》（ジェンダー）、《数》（ナンバー）。
9. 《肯定・否定》、日本語の《否定》。
10. 《人称》。《時制》。日本語の《時制》。《相対的時制》（《順序》）と《時制》の区別。
11. 《態》。日本語の《態》と《アスペクト》。《態》と《人称》と《やり・もらい》。
12. 前半まとめ。復習
13. 《話法》。日本語の《話法》。《伝達話法》（《叙述話法》と《推量話法》）、《呼び掛け話法》（《意志・勧誘話法》と《命令話法》）。
14. 《推量話法》の研究。
15. 語尾形。語幹形（基本語幹形と二次語幹形）。結合形。文形の区別、名詞の文法カテゴリー。日本語の《ジェンダー》。助数詞。格。格助詞。副詞格と文法格。格助詞かダの変化形か。
16. 意味論・語彙論・文法論。慣用の研究。語彙函数。構造語彙論。
17. 強め - 強調語。讃え - 称讃語。正しさ - 真正語。
18. 動詞化動詞。始まり - 開始語。終わり - 終止語。完了 - 完了語。続き - 継続語。繰り返し - 反復語。
19. 充たし - 充たし語。生み - 生成語。調え - 調え語。ゼロ化 - 無化語。悪化 - 悪化語。攻撃 - 攻撃語。成果 - 成果語。鳴き声のオノマトペ。
20. コトとコトの参加者（復習）。参加者を示す名詞。時・場所・状況を示す名詞。
21. 助数詞。集合 - 集合語。集団 - 集団語。成員 - 成

眞語。頭（かしら） - 頭目語。

22．同義・類義 - 同義語・類義語。敬い - 敬語。反義
- 反義語。

23．反転 - 反転語。総括 - 総括語。品詞転換 - 品詞転
換語。

24．後半のまとめ。全体の展望。試験の概要説明。

科目名	スペイン・ラテンアメリカ文化論
担当者	野々山 ミチコ

講義の目標

月曜と水曜は授業内容が異なるので注意してほしい。月曜は言語表現を通しての比較文化論。水曜は植民地論。双方の授業においてスペインとラテンアメリカを結びつけるもの、ひきはなすものは何かを探るよう努力したい。ビデオを用いて授業を活性化させる。

講義概要

月曜 スペイン語の言語表現に反映するスペイン人の国民性を考察する。ただしはじめのうちは風俗・習慣など常識として知っておいてほしいことを解説する。水曜 コロンブスの新大陸到着から始まり、ラテンアメリカ諸国のスペインからの独立までスペインがどのようにかわったかを説明していく。

テキスト

月曜 野々山真輝帆著「アミーゴとつきあう法」
(晶文社)

参考文献

世界の歴史 18 巻ラテンアメリカ文明の興亡(中央公論社)

評価方法

出席率とテストによる。

受講者への要望

まったく新しく接触する文化圏なので、好奇心を旺盛にもち、まじめに出席し、スペイン語を話す地域についての知識を持ってほしい。

年間授業計画

- 月曜
1. 洗礼と名前のつけ方
 2. 初聖体拝領とは
 3. 結婚式
 4. スペインの国旗
 5. スペインの国歌
 6. ラテンアメリカから入った植物
 7. 挨拶の言葉
 8. ピロガ
 9. 外見美の重要性
 10. Dios を使った表現
 11. オーバーな表現
 12. 女っばい男

- 水曜
1. 大航海時代
 2. "
 3. ネブリッハ

4. 最初の植民
5. 統治・行政の形態
6. コンキスタドール
7. メスティソ
8. インディオ
9. ムラート
10. 18世紀の植民地社会
11. 独立
12. ラテンアメリカがスペインへ影響を及ぼした文学運動モデルニズモ

科目名	現代中国論
担当者	辻 康 吾

講義概要

1999 年建国 50 周年を迎えた中華人民共和国は 80 年代からの改革開放政策の成功によって経済的にも急速に発展、21 世紀の世界においてより重要な役割を果たそうとしている。同時に 4000 年の歴史を背負う国として独自の道を模索している。本講では建国 50 年の歴史を振り返りの、その全容を探る。

テキスト

天児慧著『中華人民共和国史』岩波書店 / 小島晋治ら『中国近現代史』岩波書店

参考文献

リストを配布。

評価方法

期末テスト

学生への要望

語学力を向上させるためにも歴史的理解が必要であり、参考文献を可能な限り多数を読むこと。

年間授業計画

教材の順に講義を進め、可能ならば日中関係・環境問題など個別の問題を講義する。

科目名	日本思想史
担当者	川村 肇

講義の目標

日本人の思想的営為を理解することを通じて、思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。また、日本思想史の概略的な流れを理解する。

講義概要

1. 広く日本の思想史を概説する。
2. 江戸時代の思想を儒学を中心にグループで調べ、報告しあう。
3. 伝統思想（特に江戸時代の思想）と近代の思想とのかわりあいを討議する。

テキスト

配布プリント類

参考文献

- 川村肇『在村知識人の儒学』（思文閣）
 子安宣邦『江戸時代思想史講義』
 守本順一郎『日本思想史』（全3巻、新日本出版。新書）
 丸山眞男『日本の思想』（岩波書店。新書）
 丸山眞男『日本政治思想史研究』（東大出版会）
 若尾政希『「太平記読み」の時代』（平凡社）
 E. H. カー『歴史とは何か』（岩波書店。新書）
 その他、授業中に適宜指示します。

評価方法

適宜課すレポートと発表による。

受講者への要望

- ・ 一方的な講義ではなく、参加者の討議を取り入れたいので、積極的な参加を望む。
- ・ E-mail が使用できること。

年間授業計画

1. 講義の進め方について
2. 思想史とは何か（1）思想とは何か／歴史とは何か
3. 思想史とは何か（2）思想史の対象と方法について
4. 日本思想史講義 『古事記』と十七条憲法にみる古代の思想
5. 日本思想史講義 仏教思想と日本の古代社会（1）最澄の思想
6. 日本思想史講義 仏教思想と日本の古代社会（2）空海の思想
7. 日本思想史講義 仏教思想と日本の中世社会（1）

親鸞の思想

8. 日本思想史講義 仏教思想と日本の中世社会（2）栄西・道元の思想
9. 日本思想史講義 仏教思想と日本の中世社会（3）日蓮の思想
10. 日本思想史講義 仏教思想と日本の近世社会（1）朱子学と陽明学
11. 日本思想史講義 仏教思想と日本の近世社会（2）日本の儒学思想史
12. 日本思想史講義 西洋思想と日本の近代化
13. 日本思想史講義 現代日本の思想
14. グループ学習
15. グループ学習
16. グループ学習
17. グループ学習
18. グループ学習
19. グループ発表
20. グループ発表
21. グループ発表
22. グループ発表
23. グループ発表
24. 日本の伝統思想と現代（討議）

科目名	日本文化・芸能論
担当者	飯島 一彦

講義の目標

日本の文化とは、長い歴史を経て現在我々の目前に表現される、様々な、有形無形の「精神のかたち」のことをいう。芸能は具体的には「かたち」が固定して残らない文化ではあるが、感覚や精神に直接的に働きかけるという点では、「精神のかたち」を考えやすいと言える。本講義は日本の芸能を通して日本の文化を考えていく。

講義概要

日本の芸能は大雑把に言って、民俗芸能・古典芸能・大衆芸能に分けることができる。このうち民俗芸能・古典芸能は長い期間姿を変えず、文化として考えるとき対象にしやすい安定性を持っている。そこで民俗芸能・古典芸能に見ることができる、日本文化の基盤的発想と表現を、次の7種類のテーマ及びそれに関わる芸能を中心に、映像資料・歴史資料を用いて分析し、論じて行く。1 神の出現と芸能、2 農耕の習俗と芸能、3 歴史の表現と芸能、4 仏教思想と芸能、5 恋愛の表現と芸能、6 まれびとと芸能、7 遊びと芸能と日本文化

テキスト

教室で指示する

参考文献

教室で指示する

評価方法

原則として各テーマ毎の小レポートと、期末のレポート、課題としてフィールドワークや舞台芸能の鑑賞を課す。

受講者への要望

日本の文化を学び、理解しようとする意欲のない学生は基本的に講義に参加してはいけない。3年生からのゼミで日本の文化・芸能を専攻しようとするものは是非選択すること。

年間授業計画

1. ガイダンス、日本文化と芸能、芸能とは
2. 民俗芸能と古典芸能
3. 神の出現と芸能（春日若宮御祭りの芸能）
4. 神の出現と芸能（宮廷神楽）
5. 神の出現と芸能（能の翁など）
6. 農耕の習俗と芸能（中国地方の花田植え）
7. 農耕の習俗と芸能（岩手県の田植え踊り）
8. 農耕の習俗と芸能（青森県のエンブリ）

9. 歴史の表現と芸能（平曲、講談）
10. 歴史の表現と芸能（歌舞伎）
11. 歴史の表現と芸能（出雲神楽、竹富島の芸能など）
12. 仏教思想と芸能（四天王寺精霊会の舞楽）
13. 仏教思想と芸能（儀式と声明）
14. 仏教思想と芸能（毛越寺の延年など）
15. 恋愛の表現と芸能（浄瑠璃）
16. 恋愛の表現と芸能（歌舞伎）
17. 恋愛の表現と芸能（落語などの心中ものなど）
18. まれびとと芸能（鹿踊り）
19. まれびとと芸能（鬼剣舞）
20. まれびとと芸能（各地の盆踊りなど）
21. 遊びと芸能と日本文化（まとめ）
22. 遊びと芸能と日本文化（まとめ）
23. 遊びと芸能と日本文化（まとめ）
24. 予備日

科目名	日本近現代史
担当者	今野 日出晴

講義の目標

日本の近現代史を対象にしながら、歴史を学ぶ意味、そして、歴史に接近する方法を考えてみたい。過去は、現在から切り離されたものと感じられ、未来は、不透明でかすんでいるように見える。こうした状況において、立脚する視座と方法を鍛えることはますます重要になってきている。自明のものとおもわれるさまざまな概念を検討することで、私達の近現代史像を練り上げて、「過去と未来の対話」を試みたい。

講義概要

日本近現代史とされる場合の「日本」とは何か、「近代」とは何か。それらは、どのように論じられてきたのか。そして、実際の歴史の道程は、どのような筋道をたどって現在に至るのか。具体的な歴史の事象から、現在を理解するためのテーマを設定して、ともに考えてみたい。

テキスト

特に定めない。

参考文献

随時紹介する。

評価方法

筆記試験によって評価する。適宜課すレポートも評価の対象とする。

受講者への要望

受動的ではなく、積極的な態度で授業に参加することを期待する。

年間授業計画

1. 歴史を学ぶ意味
2. 歴史学と物語 - 方法からの問い -
3. これまで学んできた「日本史」と「近現代史」
4. 「日本」とは何か - 国号をめぐる -
5. 国民国家論の視座 - その 1 -
6. 国民国家論の視座 - その 2 -
7. 明治維新と国民国家
8. 国民国家の形成 - メディアの形成 -
9. 国民国家の形成 - 自由民権運動 -
10. 国民国家の成立 - 国語と日本語 -
11. 国民国家と近代教育 - 「日本人」のつくりかた -
12. 国民国家と軍隊
13. 国民国家と戦争 - 日清戦争と日露戦争 -
14. 国民国家と戦争 - 日露戦争 -

15. 沖縄から見た明治国家
16. 植民地と帝国日本
17. 大正デモクラシー - その 1 -
18. 大正デモクラシー - その 2 -
19. アジア・太平洋戦争 - 国民と動員 -
20. アジア・太平洋戦争 - 証言と史料 (1) -
21. アジア・太平洋戦争 - 証言と史料 (2) -
22. アジア・太平洋戦争 - 沖縄戦 -
23. 戦争責任論の現在 - インターネットから -
24. 過ぎ去ろうとしない過去

科目名	日本経済論
担当者	波形昭一

講義の目標

「日本経済論」と銘打った書物は沢山あるが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるのである。「日本経済論」としては、当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きのような。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないているように見られる。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目指したい。

講義概要

【前期】日本経済の近代化過程における資本主義的システムの成立、およびその動揺・再建、さらに戦時統制経済、敗戦後の経済復興へと展開した、いわば歴史的側面を中心に講義する。

【後期】1950年代半ばに発進した高度経済成長とその成長システム、さらに70年代における高度成長の終焉、80年代後半のバブル経済から90年代の「失われた10年」に言及し、日本経済の現状と問題点を論じてみたい。

テキスト

統計資料等のプリントを配布して授業を進める。

参考文献

竹内宏著「昭和経済史」筑摩書房、1988年

橋本寿朗ほか著「現代日本経済」有斐閣、1998年

評価方法

前期：定期試験の成績で評価する、競争原理に基づく相対評価を原則とする、成績評価は4段階(A, B, C, F)に分け、受験者の約25%を不可(F)とする。

後期：前期と同じ

受講者への要望

講義中の「私語」と「飲食」は固く禁ずる。大学の教室内はサッカー場ではない。

前期授業計画

1. 日本経済の近代化と産業・貿易構造
2. 日本経済の近代化と金本位制の成立
3. 恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4. 井上財政から高橋財政への転換
5. 高橋財政の経済学的意味

6. 高橋財政下の経済発展
7. 忍び寄る戦時統制経済
8. 戦時統制経済の実態
9. GHQの対日占領政策と4大経済改革
10. 戦後復興を目指す生産力拡大策
11. ドッジ・ラインとシャープ勧告
12. 朝鮮特需と戦後復興からの脱皮

後期授業計画

1. 高度成長時代の到来
2. 高度成長の構造
3. 大衆消費社会の歴史的意味
4. 高度成長の精神的土台
5. 高度成長の終焉と経済構造の転換
6. レーガノミクス
7. プラザ合意と対外経済構造の激変
8. バブル経済の要因と構造
9. バブル経済の崩壊と「複合不況」
10. 金融システムの動揺
11. 財政システムの動揺
12. 迫られるIT革命への構造転換

科目名	日本政治外交史
担当者	李 廷 江

講義の目標

明治維新以降の日本政治外交史を東アジア、特に中国、朝鮮との関連の視点から考察する。

講義概要

1871年の日清修好条規が締結してから1931年の満州事変が勃発するまでの時期が、扱われる予定である。

テキスト

入江昭『日本の外交』〈中也新香〉

池井優『日本外交史概観』〈慶応通信〉

参考文献

衛藤沈吉『東アジア政治史研究』東京大学出版会

坂野正高『近代中国政治外交史』東京大学出版会

坂野潤治『近代日本の外交と政治』研文出版

佐藤元英『近代日本の外交と軍事』吉川弘文館

三谷太郎『近代日本の戦争と政治』岩波書店

日本近代思想大系12『対外観』岩波書店

古屋哲夫編『近代日本のアジア認識』京都大学人文科学研究所

評価方法

出席と期末試験を総合して行う。

受講者への要望

好奇心の旺盛の学生や問題意識のある学生を歓迎する。

年間授業計画

1. 概要と方針の説明
2. 近代日本と東アジア - 研究動向と問題所在
3. 日本政治外交の諸要因
4. アヘン戦争と日本の反応
5. 明治維新の国際契機 - アジアとの関連で
6. 維新期の課題—領土増・条約改正
7. 富国強兵への道程 - 大陸政策の模索
8. 日清戦争
9. 『蹇蹇録』 - 近代日中関係の源流
10. 戊戌維新と日本
11. 日英同盟と中国
12. 清末改革と日本
13. 日露戦争
14. 満州を巡る国際関係と日本
15. 辛亥革命と日本の対応(1)
16. 辛亥革命と日本の対応(2)
17. 第一次世界大戦と日本

18. ワシントン体制

19. 満州事変

20. 日中戦争

21. 太平洋戦争

22. 冷戦期の日本と東アジア

23. 90年代の日本外交

24. 日本外交の課題と展望

科目名	日本研究特殊講義 A (能楽における中世武士の諸像)
担当者	瀬尾 菊次

講義の目標

中世に日本で誕生した能楽がそれ以後の日本の芸能にどのように影響を与えていったのかを能の全体像を解明しながら考察する。

また作品に登場する「中世武士」の生涯を通して、生活習慣、年中行事など人が生きていくなかで、通過していく人生儀礼・風習などが現代にどのように残っているかをも考察する。

講義概要

「半官びいき」の言葉をうみ、日本人の考え方に影響を与えた「源義経」を主人公にした能「安宅」が、以後の芸能、歌舞伎・映画にどのように取り入れられているかをビデオ鑑賞しながら作品研究し、能における表現方法を現役の能楽師が実技をふまえながら探っていく。

テキスト

関連資料のプリントを配布

参考文献

資料プリントを配布

評価方法

- ・前期（自分の住んでいる近くの能の史跡の現地取材）
 - ・後期（能・歌舞伎・映画での義経像を考察）
 - ・能楽堂での鑑賞（期日自由選択）
- 以上三点のレポートによる。

受講者への要望

学問的解釈にとどまらないために、実際に能楽堂での鑑賞を体験してもらう。

年間授業計画

1. 「安宅（勸進帳）」事件の背景
2. 源義経の生涯と時代背景
3. 同上
4. 義経の生涯と能との関連
5. 能楽（能と狂言）の概説
6. 能について その
能のながれ
7. 能について その
能楽師と狂言師
8. 能について その
能舞台について
9. 能について その
能の現行曲、史跡と現地取材との関連

10. 映画「虎の尾を踏む男達」黒澤明監督ビデオ鑑賞
11. 歌舞伎「勸進帳」作品研究とビデオ鑑賞
12. 同上
13. 能「安宅」の作品研究とビデオ鑑賞
14. 同上
15. 同上
16. 能の演技について
17. 同上
18. 「安宅」・「勸進帳」の比較
19. 同上
20. 能の作品構成・夢幻能と現在能
21. 同上
22. 現代の能
23. 前衛演劇と能
24. まとめ

科目名	日本語文法論
担当者	高松正毅

講義の目標

我々の母語である日本語の中に潜む規則を自ら発見し、それを自ら整理する力を養う「自ら掘り当てる文法」を目標とする。

講義概要

日本語が実際に使われる際に現れるさまざまな言語事実をつぶさに観察することによって、その底流に流れる規則性に気づき、体系づけていく。

基本的にテキストに沿って進んでいくが、他に「日本語教育能力検定試験」の文法問題を用いる。

テキスト

『ワークブック日本文法』おうふう他、プリント等。

参考文献

井口厚夫・井口裕子「日本語文法整理読本」バベル・プレス

吉川武時「日本語文法入門」アルク

益岡隆志・田窪行則「基礎日本語文法」くろしお出版

小池清治「現代日本語文法入門」ちくま学芸文庫

評価方法

前期および後期試験期間中に一回ずつ試験を行う。出席や授業への参加度など平常点も加味する。

受講者への要望

何よりもコトバが好きであること。興味を持って積極的に授業に参加することを望む。

年間授業計画

1. ガイダンス
2. 導入 あいまいな表現
3. 格
4. 受動文と使役文
5. 受動文と使役文
6. 自動詞と他動詞
7. 自動詞と他動詞
8. 連体修飾
9. 連用修飾
10. テンス・アスペクト
11. テンス・アスペクト
12. 授受・移動の表現
13. 授受・移動の表現
14. ハとガ
15. ハとガ

16. スコープと焦点

17. スコープと焦点

18. とりたて

19. とりたて

20. モダリティ

21. モダリティ

22. 語順

23. 語順

24. 文の構造

科目名	日本語音声学
担当者	小松雅彦

講義の目標

日本語音声を中心として、調音音声学の基礎的な知識、音響音声学・音韻論の紹介的な内容を学ぶ。調音音声学については、日本語教育等で必要最低程度程度の知識を習得することを目標とする。体系的な知識と実際の音声の調音・聴取が結びつくこと。音響音声学・音韻論については、これらの分野の紹介的な内容を聞いて理解する程度。

講義概要

前期は、調音音声学の基礎的な知識を学ぶ。日本語教師用のテキストを用い、日本語の調音について一通りのことをカバーする。実際に音声を発音し聞くことも行う。

後期の前半は、音響音声学についての講義を行う。音声の生成のしくみ、分析方法についての概要を述べた後、母音と子音の音響的特徴を見ていく。

後期の後半は、音韻論についての講義を行う。音素・素性という概念を学んだ後、日本語についてのいくつかの話題に触れる。

テキスト

猪塚元、猪塚恵美子「日本語の音声入門」バベル・プレス

参考文献

レイ・D・ケント、チャールズ・リード「音声の音響分析」海文堂

窪園晴夫「日本語の音声」岩波書店

小泉保「音声学入門」大学書林

城田俊「日本語の音：音声学と音韻論」(テキスト版) ひつじ書房

評価方法

筆記試験。

聞き取りテスト、または聞き取り・分析の宿題(検討中)

受講者への要望

本から学ぶだけでなく、実際に自分で発音することによって基礎的な知識を身に付けて欲しい。フリーソフトによる音声分析等も試みられれば、なお可。

年間授業計画

1. イントロダクション
2. . 調音音声学
調音、気流メカニズム
3. 子音と母音、IPA

4. 音声と音韻、音素
5. 五十音図とその発音
6. 特殊音素
7. 環境による音声変化
8. 音節、拍
9. アクセント
10. プロミネンス、イントネーション
11. 前期のまとめ
12. (予備)
13. . 音響音声学
音響音声学の研究
14. 音声生成の音響理論
15. 音声の音響分析、現代の分析技術
16. 母音の音響特性
17. 子音の音響特性
18. 文脈や話者が及ぼす音響効果、音声合成
(時間数が不足する場合は割愛)
19. . 音韻論
20. 音素
21. 音素素性
22. 連濁
23. 日本語の特質とモーラ
24. 音節とアクセント

科目名	日本語史
担当者	小島幸枝

- 20. 言語生活史
- 21. 位相語の歴史
- 22. 言語変化とその要因
- 23. ~25. 予備

講義の目標

日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度も語彙をとりあげ、その史的変遷を迎えることを目的とする。

講義概要

講述にあたっては、時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。

テキスト

沖森卓也編『日本語史』(おうふう)

参考文献

- ・亀井孝他編『日本語の歴史』1～7 (平凡社)
- ・永山勇『国語史概説』(風間書房)
- ・国語学会編『国語の歴史』(改訂版)(刀江書院)
- ・「講座解釈と文法」1～7(明治書院)
- ・山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館)
- ・土井忠生編『日本語の歴史』(至文堂) その他

評価方法

前期・後期にレポート各1本

受講者への要望

日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を履修した上で受講することがのぞましい。

年間授業計画

1. 奈良時代までの日本語
2. 平安時代の日本語
3. 鎌倉時代の日本語
4. ~5. 室町時代の日本語
6. ~7. 江戸時代の日本語
8. ~9. 明治以降の日本語
10. 文字史
11. ~12. 音韻史
13. 文法史
14. 待遇表現史
15. ~16. 語彙史
17. ~19. 文章文体史

科目名	対照言語学
担当者	中西 栄子

講義の目標

二言語間（日本語と他の言語 基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて理解を深める。 1）それぞれの言語についての体系的知識 2）言語の背景にある発想法 3）第二言語としての日本語習得への干渉 4）日本語教育への応用

講義概要

対照言語学の目標は二つの言語の共時的な比較対照を行い、そこでの結果をいかに日本語教育に応用するかを考えて行くことと捉える。その一方で二言語の体系的な知識を得るという目的も達成するように指導していく。日本語を学ぶ場合、学習者の母語と日本語の相違がどのような影響を与えるかについては、比較対照することによってかなりのことが予測できることが分かっている。また、日本語の誤用の原因もその相違によって説明できることが多い。誤用の資料を検討・分析し、次に検討した事柄についていろいろな角度から比較対照を試みる。

テキスト

無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。

参考文献

- 安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
 森田良行『日本語の視点』創拓社
 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版
 国広哲弥編『日英語比較講座 1 4巻』大修館書店
 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版
 『講座日本語学』外国語との対照 10、11、12 くろしお出版

評価方法

1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) レポートの発表と提出 30% 3) 出席 10% 欠席 6回以上は認めない。

受講者への要望

テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめてお

くこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。

年間授業計画

前期

1. オリエンテーション 語順（説明）
2. 語順 無生物主語の構文（説明） 所有格（説明）
3. 無生物主語の構文 所有格 人称代婦詞・指示代名詞（説明）
4. 人称代名詞・指示代名詞 Of + 名詞（説明）
5. Of + 名詞 形容詞・副詞（説明）
6. 比較級・最上級 形容詞・副詞 自動詞文・他動詞文（説明）
7. 自動詞文・他動詞文 否定（説明）
8. 否定 受動態（説明）
9. 受動態 連体修飾（説明）
10. 連体修飾
11. 連体修飾 仮定法（説明） 話法（説明）
12. 仮定法 時制・接続詞

備考

後期

- ・課題発表 各人が自分の課題を決めて発表
- ・各テーマについての誤用分析
- ・対照・誤用分析に基づいた日本語の導入と説明及び練習問題の作成
- ・日本語のテキストでの扱いかたを調べる

備考

科目名	日本語教授法
担当者	中西 栄子

講義の目標

言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。

講義概要

言語学習・習得理論、それに基づくさまざまな外国語教授法を紹介したのち、日本語教育に関し、教材開発、教案の書き方、教室活動のマネジメント、4技能のレベル別指導方法、評価方法、テストの作り方等、具体的に例を見せながら指導する。特に、言語教育には言語伝達能力の育成が重要であることを強調したい。学生には言語運用能力の教育を重視した教案・教材を作成させ、グループワークを通じて言語教育の方法を理解且つ習得させる。文法・語彙指導は特に強調する点で、日本語の文型を言語機能として捉え、それをどのように学習者に紹介・導入するか、導入した後、それをどのような練習を通して習得させるか等、段階的に様々な活動を積み上げていき、最終的には発話場面や文脈に沿った言語運用ができるように指導する方法について学習する。

テキスト

中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版

プリントのハンドアウト

参考文献

- ・ D. スタインバーグ『言語心理学』 研究社
- ・ A. C. Omaggio "Teaching Language in Context"
- ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版
- ・ 『にほんごのきそ、教師用指導書』財団法人海外技術研修協会
- ・ ピピアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社

評価方法

- 1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%

受講者への要望

本クラスを取るまえに日本語教育概論又は日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。従って6回以上の欠席は認めない。3年次に履修してほしい。

年間授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の要因
3. 言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
4. 教材 1. 教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2. その他の専門教材
5. 同上
6. 教室活動と授業分析・教案の書き方
7. 同上
8. 音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
9. 聴解の教材作成と指導 1. 初級 2. 中級 3. 上級 同上
10. 文字表記の指導と教材 1. 平仮名・片仮名の導入 2. 漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
11. 同上
12. 同上

備考

後期

1. 読解力の養成 精読・スキミングと教材作成 1. 初級 2. 中級 3. 上級
2. 同上
3. 文法の指導と教材 意味と文型の導入 1. ドリルから応用へ 2. 絵教材・その他の教材の作成と検討
4. 同上
5. 同上
6. 会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
7. 同上
8. Video 教材の紹介とその使用方法
9. 同上
10. 作文の指導法と評価の方法
11. 同上
12. 評価とテストの作成法

備考

科目名	日本語教授法
担当者	各 担 当 教 員

講義の目標

外国語としての日本語を教える方法を考え学ぶ。

講義概要

日本語教育機関での実習を行うための完全に演習的な授業。従って、毎回学生による模擬授業が行われ、その授業観察を通じて、各人が授業内容、進め方、等について具体的に検討しあう。教案作成、様々な副教材の作成も科せられる。なお、前期完結科目（週一回の講義）行う。

テキスト

なし。

参考文献

『しんにほんごのきそ』・『しんにほんごのきそ・教師用書』（スリーエーネットワーク）中級については未定。

評価方法

教案提出・模擬授業・教材発表 模擬授業（2回）

教材の提出 模擬授業の反省と自己分析 出席

受講者への要望

クラス活動への参加が重要なので、欠席は極力避けること。与えられた課題をきちんと果すこと。

年間授業計画

1. オリエンテーション
2. 教材の研究・検討
3. 教案の書き方とオブザベーション
4. 模擬授業グループ別
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上

科目名	現代思想
担当者	松丸 壽雄

講義の目標

他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。

講義概要

日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想および宗教的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。また、コミュニケーション理論や認知科学に多大の影響を与えているコンストラクティヴィズムなどを批判的に取り組み、他者理解の場所の可能性を探る。

テキスト

なし。

参考文献

講義中に適宜指示。

評価方法

レポートの内容により評価。

受講者への要望

講義中の話を自分でノートが取れるように工夫してもらいたい。

年間授業計画

1. 講義の概要説明と受講についての諸注意。
2. 日本の近代思想（明治期）
3. 日本の近代思想（明治・大正期）
4. 現代日本思想（1）西田哲学
5. 現代日本思想（2）京都学派
6. 現代日本思想（3）その他
7. 中国の思想と宗教（1）儒教
8. 中国の思想と宗教（2）宋学
9. 中国の思想と宗教（3）道教と現代
10. インドの思想と宗教（1）ジャイナ教と唯物論
11. インドの思想と宗教（2）仏教と現代インド
12. インドの思想と宗教（3）ヒンドゥーと現代
13. 現代西洋思想（1）ドイツの実存思想
14. 現代西洋思想（2）ドイツの実存思想（続き）
15. 現代西洋思想（3）ドイツの現代思想
16. 現代西洋思想（4）ドイツの現代思想（続き）
17. 現代西洋思想（5）フランスの実存思想

18. 現代西洋思想（6）フランスの現象学
19. 現代西洋思想（7）フランスの現象学（続き）
20. 現代西洋思想（8）フランスの精神科学
21. 現代思想（1）科学の立場
22. 現代思想（2）科学と哲学
23. 現代思想（3）科学と宗教
24. 現代思想（4）科学と倫理

科目名	自然言語処理
担当者	呉 浩 東

講義の目標

自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語とされている。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものである。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とする。

講義概要

本講義は、自然言語処理の基礎技術について解説する。ここでは、自然言語の形態素・構文解析、意味解析、辞書やシソーラスについての基礎から説明を行い、さまざまな知識を自然言語処理に応用することについて概説する。コンピュータを利用して資料やソフトの収集、言語データを用いて演習も同時に行う。さらに、自然言語処理の応用技術を解説し、いくつかの応用例を紹介する。特に、校正支援システムや要約システム、機械翻訳システム、情報検索、自然言語理解システムなどの基本技術・基本アーキテクチャを説明する。そして、実際のシステムを評価し、問題点を検討しながら、これから解決すべき課題を明らかにする。

テキスト

最初の講義で指示する。

参考文献

- 1)「自然言語処理」長尾真編 岩波書店 1996
- (2)"Foundations of Statistical Natural Language Processing" C. D. Manning, H. Schutze, MIT Press, 1999
- (3)"Foundations of Computational Linguistics (man-machine communication in natural language)" R. Hausser, Springer-Verlag, 1999
- (4)「言葉と言語処理」古郡廷治著 昭晃堂 1997
- (5)「自然言語処理」石崎俊著 昭晃堂 1997
- (6)"Statistical Language Learning" E. Charniak, MIT Press, 1993

評価方法

提出するレポートと筆記試験の結果を併せて評価

する。

受講者への要望

受け身で聞いているだけでなく、積極的に質問をして欲しい。

年間授業計画

1. 言葉とコンピュータ 人工言語、自然言語、自然言語処理の諸方面
2. 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性
3. 言語処理の知識源(1) 電子辞書、シソーラスの構造と情報抽出
4. 言語処理の知識源(2) コーパス、言語データベースの種類と使い方
5. オンライン言語資源の使用 インターネットから言語資源の使用方法
6. 形態素解析(1) 形態素解析の方法
7. 解体素解析(2) 品詞のタグ付け日本語と英語の形態素解析実験
8. 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正、単語の統計処理、Zipfの法則
9. 言語の統計処理(1) コーパスからさまざまな知識の抽出技術
10. 言語の統計処理(2) 希薄的データ問題とその解決方法
11. 構文解析(1) 文の構造、構文木、文法規則、構文解析について
12. 構文解析(2) 日本語・英語構文解析の実験
13. 意味解析(1) 意味構造、意味解析に用いる知識
14. 意味解析(2) 意味解析の諸手法
15. 語彙的曖昧性 語彙的曖昧性の解消、訳語選択
16. 構文的曖昧性の解消 前置詞句の係り先、等位構造、複雑名詞句構造の解析
17. 文書処理(1) 文章の校正支援
18. 文章処理(2) 文章の要約自動生成システムの構成、使用及び評価
19. 機械翻訳(1) 機械翻訳システムの使用と評価
20. 機械翻訳(2) 機械翻訳の処理方式、機械翻訳システムの種類
21. 文脈解析 談話構造、照応問題の解決
22. 情報検索(1) 情報検索における言語処理技術
23. 情報検索(2) 索引語の選定、語の頻度情報の利用、情報の抽出と要約
24. まとめ 統合的な自然言語処理、自然言語処理の未来への展望

科目名	異文化間コミュニケーション論
担当者	石井 敏

講義の目標

本講義には3種類の基本目標がある。第1の目標は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化移入・模倣の一方方向コミュニケーションの態度を異文化間の平等意識にもとづく双方向コミュニケーションの態度に転換することである。そして第3の目標は、上の2目標を達成するために不可欠な条件として、日本社会・文化に対する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を養成し、健全な異文化間コミュニケーション能力の基礎を築くことである。

講義概要

本講義の総合的内容は、文化の概念、コミュニケーションの概念、文化とコミュニケーションの相関関係、そして日本社会における研究・教育上の現状と今後の課題である。具体的には、「文化とは」、「文化の差異」、「コミュニケーションとは」、「ことばとコミュニケーション」、「ことばをこえたコミュニケーション」、「異文化と人間関係」、「異文化と社会関係」、「異文化理解とコミュニケーション技能」、そして「異文化コミュニケーション教育の課題と展望」である。

テキスト

石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣

参考文献

- ・石井敏他『異文化コミュニケーション』有斐閣
- ・石井敏他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣
- ・石井敏他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣

評価方法

多数の受講者が予想されるため、期末試験の成績による。

受講者への要望

受講者は英語でノートをとることが多いため、授業計画に従って予習をし、必要な辞書や参考書を持参すること。万一欠席をする場合には、友人の協力を得て、欠けた部分の補充を早目にすること。

年間授業計画

1. 一般的導入と受講上の注意。文化、世界観、価値観（教科書2～7頁）

2. 文化相対論、サブカルチャー・共文化、時間、空間（教科書8～17頁）
3. 宗教、人間観、儀礼、倫理観、（教科書18～25頁）
4. 法意識、イェ、生死観、個人主義と集団主義（教科書26～33頁）
5. 達成と生得、偏見、自民族優越主義、ステレオタイプ（教科書34～41頁）
6. タブー、コミュニケーション、コード、意味づけ（教科書42～51頁）
7. フィードバック、知覚、認知、感情移入、自己概念（教科書52～59頁）
8. コンテキスト、コミュニケーション・レベル、コミュニケーション・パターン、言語と文化（教科書60～69頁）
9. 言語と思考、言語相対説、言語メッセージ、レトリック（教科書70～77頁）
10. メタファー、スモール・トーク、ユーモア、敬語（教科書78～85頁）
11. 婉曲表現、非言語メッセージ、身振り言語、近接学（教科書86～95頁）
12. 周辺言語、間、沈黙、ハラ（腹）（教科書96～103頁）
13. 以心伝心、Pタイム・Mタイム、ガイジン（外人）カルチャー・ショック（教科書104～113頁）
14. 縁、和、家族形態、公と私（教科書114～121頁）
15. タテ（縦）とヨコ（横）、ウチ（内）とソト（外）、世間体、仲介者（教科書122～129頁）
16. 贈答、礼儀、ホンネ（本音）とタテマエ（建前）、義理と人情（教科書130～137頁）
17. なじみ、甘え、補完と対称、派閥（教科書138～147頁）
18. イノベーション、労使関係、交渉、稟議と根回し（教科書148～155頁）
19. 意思決定、葛藤、異文化経営、現地主義（教科書156～163頁）
20. 非関税障壁、国際報道、プロパガンダ、コマーシャル（教科書164～171頁）
21. リーダーシップ、マイノリティ、国籍、国際結婚（教科書172～179頁）
22. 外国人就労者、難民政策、異文化理解教育、コミュニケーション能力（教科書180～189頁）
23. 外国語教育、日本語教育、外国人教員、通訳・翻訳（教科書190～197頁）
24. 海外子女教育、帰国子女教育、海外留学、外国人

留学生（教科書200～207頁）

科目名	カウンセリング論
担当者	瀧本孝雄

- 22. グループ・ワーク(1)
- 23. グループ・ワーク(2)
- 24. 人間理解とカウンセリング

講義の目標

カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。

また、カウンセリングの関連領域であるパーソナリティ、人間関係、発達心理等について学習する。

講義概要

前半では、まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的技法について学ぶ。特に傾聴のカウンセリングにおける重要性を理解する。

後半では、パーソナリティ理論、人間関係と性格との関連、乳幼児期から老年期までの発達の諸問題について理解する。

テキスト

「新版カウンセリングと心理テスト」林潔他著、ブレーン出版

評価方法

出欠席、レポート提出により評価する。

受講者への要望

出欠席を重視するので、授業に休まないことを要望する。

年間授業計画

1. カウンセリングとは何か(定義・目的)
2. カウンセラーの役割と資格
3. カウンセラーの世界(相談機関)
4. クライアント中心カウンセリング(1)
5. クライアント中心カウンセリング(2)
6. 精神分析的カウンセリング
7. 認知行動カウンセリング
8. 傾聴の理論
9. 傾聴の実習
10. ロールプレー実習(1)
11. ロールプレー実習(2)
12. 教育、産業、医療とカウンセリング
13. パーソナリティの定義
14. パーソナリティの類型論と特性論
15. パーソナリティの形成と変容
16. 文化とパーソナリティ
17. 発達とパーソナリティ
18. 葛藤の理論
19. 欲求不満(フラストレーション)
20. 防衛機制
21. ストレス・マネジメント

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コーパス言語学入門)
担当者	井口厚夫

24.(予備)

講義の目標

言語情報解析を目的とする。

講義概要

Web 上やその他のメディアで入手できる言語データをパソコンを用いて処理し、言語学研究に役立てるようにする。言語データは日本語を基本とする。なおこの講義はセメスター制により後期完結週二日の授業形態である。

テキスト

上田博人『パソコンによる外国語研究(2)文字データの処理』くろしお出版

評価方法

レポート及び授業への貢献度

受講者への要望

パソコンはあくまでツールとして使う。それ自体が目的ではない。
言語（特に日本語）および言語学の興味を持つ学生に受講してもらいたい。

年間授業計画

1. イントロダクション
2. OSの基礎(ログイン、メール)
3. エディタ
4. ブラウザ
5. データの収集 1
6. データの収集 2
7. データの検索 1
8. データの検索 2
9. 応用研究 1
10. 応用研究 2
11. データの加工 1
12. データの加工 2
13. 正規表現 1
14. 正規表現 2
15. 応用研究 3
16. 応用研究 4
17. 文法情報(タグ付け)
18. 形態素解析-茶筌等で-
19. 応用研究 5
20. 応用研究 6
21. コンコーダンス
22. 応用研究 7(外国人用日本語辞書)
23. 応用研究 8(外国人用日本語辞書)

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)
担当者	呉 浩 東

講義の目標

本講義では、コンピュータの基本操作をマスターした外国語学部の学生を対象に、人間の言葉をコンピュータによる処理するために入門的な知識を習得することを目的とする。そのために、実際にプログラミングを行い、ソフトウェアの使用と開発の技能を身に付けることを目標とする。

講義概要

前期は、初めにコンピュータのハードウェアとソフトウェアを概説する。続いて、ソフトウェア開発の手順について講義し、プログラミング言語のひとつである Visual Basic を用いてプログラミングの方法を解説しながら、実習を行う。

後期は、プログラミングの方法を概説した後、自然言語処理の基本となる技術を中心に講義と実習を行う。まず、単語の諸統計、誤綴の検出と訂正などに関する簡単なプログラムを紹介する。その後、機械翻訳について解説し、機械翻訳ソフトウェアを使用して実習しながら自然言語処理の入門知識を学習する。

テキスト

- (1) 最初の講義で指示する。
- (2) 随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。

評価方法

前・後期各一度のテストと、3～4回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。

受講者への要望

「コンピュータ入門」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。人数が多い場合は、抽選を行う。

年間授業計画

1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説

コンピュータの構成要素と動作原理、コンピュータの種類、特徴、性能

2. プログラミング言語とオペレーティングシステム

コンピュータと機械語、オペレーティングシステム、Windows と GUI

3. ソフトウェア開発手順

プログラム開発の手順、システム開発の手順

4. Visual Basic プログラミング (1): Visual Basic(VB)とは

画面構成、起動と終了、ウィンドウの構成と基本的な操作方法

5. Visual Basic プログラミング (2): VB を体験してみる

コントロールの配置、プロパティの設定、画面のデザイン

6. Visual Basic プログラミング (3): 何を作ってみよう

プログラムのコーディング、実行、保存および呼び出す

7. Visual Basic プログラミング (4): コントロールについて

コントロールの種類、プロパティ値の設定

8. Visual Basic プログラミング (5): 画面のデザイン

コントロールをデザインするコツ、プロパティの値の取得と演算、メソッド

9. Visual Basic プログラミング (6): データ型と演算子

データ型、変数と定数の宣言、演算子

10. Visual Basic プログラミング (7): ジェネラルプロシージャの活用

Sub プロシージャと Function プロシージャ

11. Visual Basic プログラミング (8): 選択のあるプログラム

選択ステートメント、コントロールの扱い方

12. Visual Basic プログラミング (9): 繰り返しのあるプログラム

各種繰り返し構造

13. Visual Basic プログラミング (10): プログラム

フォームの設定、ラベル、オブジェクト、メソッド、プログラムの新規作成

14. Visual Basic プログラミング (11): グラフィックス

グラフィックスを作る。

15. Visual Basic プログラミング (12): ファイル操作

キーボードからの操作、ファイルの保存と読み込み、実行ファイルの作成

16. Visual Basic プログラミング (13): プログラム (2)

配列を用いた実用プログラム例

17. Visual Basic プログラミング (14): プログラ

ムのデバッグ

プログラムのデバッグと実行ファイルの生成

18. 自然言語処理（計算言語学）入門

人工言語、自然言語、自然言語処理における課題

19. 単語処理

単語の同定、誤綴の検出と訂正

20. 言語処理の知識源

電子辞書、シソーラス、コーパス、言語データベース

21. 機械翻訳（1）

形態素解析

22. 機械翻訳（2）

構文木、文法規則、構文解析

23. 機械翻訳（3）

文と単語の意味解析

24. 機械翻訳（4）

機械翻訳システムの使用と評価

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義A (コンピュータ・プログラミング論)
担当者	高柳 敏子

講義の目標

本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理およびプログラミングとは何かを学習する。

コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の方法やそのアルゴリズムを学習する。

講義概要

前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。

後期は、一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++ によるプログラミングを通して基本的な情報処理のアルゴリズムをおよび問題解決の技法を学習する。

テキスト

随時必要な資料をファイルで配布する。

参考文献

「CASL Programming」ITEC (情報処理技術者教育センター)、1994

Jamsa 著、春木・佐藤共訳「C++超入門」アスキー出版局、1994

評価方法

前期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

後期の定期試験と 3 回程度のレポートおよび出席による。

受講者への要望

MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。

また、欠席をしないこと。

前期授業計画

1. コンピュータの歴史 (1): ハードウェア
ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子
2. コンピュータの歴史 (2): ソフトウェア
プログラミング言語、オペレーティングシステム.
3. ノイマン型コンピュータの構成
中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置.
4. COMET の処理装置 (1)
語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC)、レジスタ (GR, FR, XR)
5. 情報の表現 (1): 数値の内部表現
整数と 2 の補数表記、16 進表現
6. CASL プログラミング (1)
CASL の命令: 疑似命令、マクロ命令、機械語命令、プログラムの形式: ラベル、命令コード、オペランド、注釈
7. CASL プログラミング (2)
CASL の命令: ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保
8. CASL シミュレータとその実行
実習 (1): プログラムの入力、編集、アセンブル、1 命令毎の実行、プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し
9. CASL プログラミング (3): 乗除算処理
シフト演算、比較演算命令および分岐命令と FR
10. CASL プログラミング (4): 繰り返し処理
XR の効用
11. 情報の表現 (2): 文字の内部表現
入出力命令と ASCII コード、JIS コード
12. CASL プログラミング (5)
実習 (2): 練習問題

後期授業計画

1. アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳、連係編集、実行
実習 (3): C++ 例題とコンパイラの操作
2. C++ 言語とは
C++ 言語の基本事項: 文、ブロック、コメント
3. C++ プログラミング (1): 演算と演算子
情報の表現 (3): 実数
4. C++ プログラミング (2): 判断・分岐
関係式、関係演算子、論理演算子
5. C++ プログラミング (3): 繰り返し
配列と文字列データ

6. C++プログラミング(4):関数
 - 関数にデータの値を渡す (call by value)
 - 関数にデータの番地を渡す (call by reference)
7. C++プログラミング(5)
 - 実習(4):練習問題
8. アルゴリズムとプログラミングの応用(1)
 - 数値計算と例題
9. アルゴリズムとプログラミングの応用(2)
 - データ構造と整列
10. アルゴリズムとプログラミングの応用(3)
 - データ構造と探索
11. アルゴリズムとプログラミングの応用(4)
 - ファイル処理の例題
12. アルゴリズムとプログラミングの応用(5)
 - 実習(5):応用問題

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)
担当者	立 田 ル ミ

講義の目標

この講義では、コンピュータ入門、情報科学各論をさらにすすめ、レポートの作成、卒業論文作成などの際に、次のようなソフトウェアを活用し、プログラムが作成できるようにすることを目的とする。

卒業論文はワープロや表計算、その他のソフトを統合して利用する。必要な資料やデータは、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。E-Mail を使って、情報交換、資料のやり取りをする。有用な情報を自らホームページで発信する。マルチメディアを活用する。卒業発表などの発表を、プレゼンテーションツールを使って効果的に行なう。

講義概要

この講義では、コンピュータ入門、情報科学各論をさらにすすめた講義および実習を通して、上記の目標を達成するために、メールソフト・Web ブラウザ・ワープロソフト・表計算ソフト・画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトの使用法をはじめとして、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能やインターネットの理解も含め、プログラミング全般のテーマを扱う。また、JavaScript などの HTML を拡張するスクリプト言語についても講義および実習を行う。作成したものはすべてネットワーク上にあるエリアに保存し、さらにサーバへの移行を行う。

テキスト

立田ルミ “コンピュータとネットワークによる情報活用” 朝倉書店

参考文献

立田ルミ “教育システム情報と Visual Basic” 朝倉書店

画像関連の書籍については、授業時に指定する。

評価方法

前期：レポート : 60%
ネットワーク上に提出
定期試験 : 40%
後期：レポート : 60%
ネットワーク上に提出
定期試験 : 40%

受講者への要望

この講義は演習を伴うので、人数に制限があるこ

とに留意されたい。人数が多い場合は、抽選を行う。コンピュータ入門、情報科学各論既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。

前期授業計画

1. イントロダクション：講義と実習
ガイダンス、基礎の復習、メールの設定
2. コンピュータとネットワークの仕組み：講義
ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク構成
3. 電子メールの活用：講義と実習
複数メールの処理、添付ファイル、メールの整理
4. ホームページの活用：講義と実習
ブックマーク、画像の保存、ダウンロード
5. Word の活用：講義と実習
図の挿入とウィザード、数式の利用、HTML 形式
6. Excel の活用 - 1：講義と実習
表計算の基本、作表、表の計算
7. Excel の活用 - 2：講義と実習
いろいろな関数の利用と V B プログラム
8. Excel の活用 - 3：講義と実習
様々なグラフの利用、HTML 形式
9. Excel の活用 - 4：講義と実習
シミュレーションのプログラム作成
10. Word と Excel の活用：講義と実習
ネット上のデータをダウンロード、加工
11. Access の活用 - 1：講義と実習
データベース作成
12. Access の活用 - 2：講義と実習
データ抽出のプログラム作成

後期授業計画

1. マルチメディアの活用 1：講義と実習
画像の作成と編集
2. マルチメディアの活用 2：講義と実習
画像と取り込みと圧縮
3. マルチメディアの活用 3：講義と実習
音声の取り込みと編集
4. マルチメディアの活用 4：講義
動画の処理と実際
5. PowerPoint の活用 1：講義と実習
プレゼンテーションの作成
6. PowerPoint の活用 2：講義と実習
オブジェクトの作成
7. PowerPoint の活用 3：講義と実習
アニメーション効果、ハイパーリンク
8. PowerPoint の活用 4：講義と実習
グラフ、画像の利用、HTML 形式

9. ホームページ作成 1：講義と実習

画像のあるホームページ作成

10. ホームページ作成 2：講義と実習

音声のでるホームページ作成

11. ホームページ作成 3：講義と実習

動きのあるホームページ作成

12. ホームページ統合 - 実習

すでに作成したホームページを統合する

科目名	情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (人間行動論)
担当者	青柳 多恵子

講義の目標

異文化を背景にした人間や異なる地域・思考の人間が21世紀に向かって互いに理解しあい、意思の疎通が出来る必要がある。そのためには人間行動にかかわる問題を明確に示す課題を置き、それらのテーマにそって人間そのものを解明していく事は必要不可欠な問題である。行動として表れるその時々々の現象のメカニズムや、その根幹を成している人間箇としての身体運動の原理を学び、体力のことや高度な技術の可能性と限界といった人間の諸問題を様々な方面から有機的に結びつけるよう意図した科目。

講義概要

コミュニケーションの多様性を、能力の発達段階である幼児の時期から、その発達段階に現れる様々なコミュニケーションの現状とその問題点を、就学前と就学後の時期の現状の課題を研究。また人間行動としてのスポーツの中に見られる競技運営に見られるコミュニケーションについて、異文化間のコミュニケーションに言語が重要なように、健常者と障害を持つ人とのコミュニケーションに必要な要件についての課題を考える。その時々々の人間行動に関わる問題をテーマとし、オムニバス方式に複数の講師によって実施される。

テキスト

その都度講師より紹介される。

参考文献

その都度講師より紹介される。

評価方法

講師担当毎に評価。担当5名の総合による。

年間授業計画

1. ガイダンス...青柳・鳥谷部・安井

2~5 鳥谷部志乃恵

2. <コミュニケーション能力の発達>

誕生時から一歳前後までに見られるコミュニケーション能力(立つ、歩く、ものと関わる、ことばを使い始める)

3. 二歳から四歳前後までの発達に見られるコミュニケーション能力(親子、兄弟姉妹など身近な人々との関わりを通じて育まれる基本的信頼感、友だちへの興味と遊びを通じての仲間意識の獲得)

4. 四歳から五歳前後に見られる発達に見られるコミュニケーション能力(引っ込み思案から自発的活

動への準備、イメージの拡張と認識の世界の広がり、想像力が飛躍的にのびる、物語作りの基礎となる思考の働き、「今」「ここ」を超える力としての読み書き能力の獲得

5. 発達研究の現状と課題 乳児の認知研究、認知の発達研究、表現の発達研究、人間関係の発達研究の現状発達ということの裏と表、共同性(個と他者の対話)の問題、能力と活動と意味のつながりの問題、発達ともう一つの時間(希望)の問題

6~9 安井一郎

6. 学校教育におけるコミュニケーションとその課題

1 (授業におけるコミュニケーションの過程)

7. 学校教育におけるコミュニケーションとその課題

2 不登校

8. 学校教育におけるコミュニケーションとその課題

3 いじめ

9. 学校教育におけるコミュニケーションとその課題

4 学級崩壊

10~13 梶野克之

10. スポーツの場面上におけるコミュニケーションについて考察

競技運営上に必要とされるコミュニケーションをプレイヤー、指導者それぞれの立場から考える

11. スポーツ実践を組織活動と捉えた場合その組織が有機的に作用するのに有効な方法とコミュニケーションと関連性について考察

12. 運動種目別に捉えた競技実施上で必要とされるコミュニケーションに差異があるのか、その差異について考察

13. 特定の競技種目(ラグビー)に焦点をあて、組織運営上また、競技実施上で有効とされるコミュニケーションについて、競技者、指導者の立場から考察

14~17 松原裕

14. サッカーにみるコミュニケーション1) サッカー部族とは何か、部族の起源、様々な顔、掟、なわばり、タブー、罰、戦略、戦術、部族の集会、中心儀式、儀式的クライマックス、勝利の祝い

15. サッカーにみるコミュニケーション2) サッカー部族の英雄、英雄の背景、人格、英雄の動機づけ、アウェイ・ゲーム症、ゲームズマンシップ、英雄の技能、迷信、英雄の果敢な行為、勝利のディスプレイ、英雄の敗北、英雄の社会生活

16. サッカーにみるコミュニケーション3) サッカー部族の装飾、ボール、服装、色彩、紋章、トロフィー、部族の長老、部族の随行者、随行者の階層、随行者の装飾品、随行者のディスプレイ、随行者の暴

力、部族の災難、英雄崇拜、部族のマスコット、部族の露出狂

17. サッカーにみるコミュニケーション 4) サッカー部族の言語、部族の歌

18~23 青柳多恵子

18. 共時性と自己性について<人と人のコミュニケーションを考える>

19. 東洋思想に見られるコミュニケーション<他者や宇宙と目に見えない形でコミュニケーションしている>

20. 人間関係の相互の「理解」と「誤解」<個人の成長にとってのコミュニケーション>

21. 言語と人間関係<記号と人間、活動と人間>

22. 人間行動に見られるコミュニケーションと習慣

23. 孤独な現代人とコミュニケーション<機械との交信と生活>

科目名	地域文化論 i (ラテンアメリカ)
担当者	佐藤 勘治

講義の目標

ラテンアメリカ・カリブ海地域に関する入門の授業である。高校レベルの基礎的知識およびプラスアルファの現代的問題に接近する授業である。ラテンアメリカの特質を知ってもらいたい。一部、米国のラティーノについて基礎的問題を考えたい。

講義概要

最初の三分の一で、基礎的知識の整理を行う。昨年度はビデオを見たが今年はビデオとともに教科書（高校レベル）を併用する。次に、ラテンアメリカを特徴づける民族問題について論じていく。最後の三分の一では、現代ラテンアメリカの諸問題を社会、政治、文化、宗教などをトピック的に扱う。人数にもよるが、英語、スペイン語、日本語で書かれた小論を学生に発表させたい。また、適宜、ラテンアメリカに関する新聞記事を紹介してもらおうつもりである。

テキスト

高橋均『ラテンアメリカの歴史』世界史ブックレット 26 山川出版
適宜、プリントを配る

参考文献

「獨協大学生のためのスペイン語・ラテンアメリカ研究入門」
<http://www2.dokkyo.ac.jp/spla/review/index-1.html>
内の推薦文献を参照のこと

評価方法

小テストおよび平常点、期末レポートを総合的に判断する

受講者への要望

積極的発言を望む

年間授業計画

1. 授業内容の紹介
2. ラテンアメリカの地理的範囲
3. ラテンアメリカの民族 / インディオとメスティーノ
4. ラテンアメリカの民族 / 黒人とクレオール
5. Reconquista と Conquista
6. 植民地時代
7. 十九世紀
8. 現代ラテンアメリカ
9. 基礎知識に関する小テスト

10. 米ラテンアメリカ関係史(1)米西戦争、パナマ独立まで
11. 米ラテンアメリカ関係史(2)キューバ革命
12. 米ラテンアメリカ関係史(3)チリ革命
13. 米ラテンアメリカ関係史(4)中米紛争
14. 米ラテンアメリカ関係史(5)サパテイスタと NAFTA
15. 褐色の聖母「グアダルupesの聖母」(スペイン語文献を読む)
16. 上記の続き
17. ラテンアメリカの政治の特色「権威主義体制」(日本語論文を読む)
18. 占領されたメキシコ / 米墨戦争から NAFTA まで (スペイン語文献を読む)
19. 上記のつづき
20. アルゼンチン (日本語論文を読む)
21. ブラジル (日本語論文を読む)
22. 米国のラティーノ (英語論文を読む)
23. ラテンアメリカ・ウオッチ
24. ラテンアメリカ・ウオッチ

科目名	地域文化論（スペイン）
担当者	野々山 ミチコ

講義の目標

スペインとはいかなる国か？他のヨーロッパしゃかいとの違いは？月曜は歴史的面から考察。水曜は現代社会の諸問題をとりあげる。毎回ビデオを用い、講義を活性化する。

講義概要

月曜 スペイン人の国民性にふれ、その背景にある歴史を考える。またとくにアンダルシアをとりあげ、スペインのアイデンティティとされる闘牛、フラメンコにもふれる。水曜 フランコの死後、民主化したスペインの社会問題をとりあげる。

テキスト

野々山真輝帆著「すがおのスペイン文化史」(東洋書店)

参考文献

斉藤孝編「スペイン・ポルトガル現代史」(山川出版社)

野々山真輝帆「スペイン辛口案内」(晶文社)

評価方法

出席率とテストによる

受講者への要望

日本と比較して考えてほしい。またスペイン語の履修者はこのコースによってスペイン文化の理解を深めてほしい。

年間授業計画

1. 月曜 スペイン人の国民性と歴史的背景
2. " "
3. " "
4. " "
5. " "
6. " アンダルシアとナショナリズム
7. " フラメンコ
8. " 闘牛
9. " バンプロナの牛追い祭
10. " 聖母マリア崇拜
11. " スペインの騎士道的カトリック
12. " パティオ
13. 水曜 フランコ時代の男女交際
14. " ファン・カルロス国王
15. " 中絶
16. " 性差別と教育
17. " 女性の社会進出

18. " ホモセクシュアル
19. 水曜 初等中等教育の問題点
20. " 歴史教育
21. " 外国人移民
22. " 若者の価値観
23. " "
24. 食文化

科目名	地域文化論（中国）
担当者	辻 康 吾

講義概要

約百年にわたる動乱と革命、そして過去 20 年の急速な近代化。中国は大きく変容しつつも、また 4000 年の歴史を背負っている。“ 変る中国・変らぬ中国 ” の二面性をその文化の中から探る。

テキスト

中国語原書『中国文化要略』（コピーを配布）

参考文献

リスト配布。

評価方法

期末テスト

学生への要望

予習を重視する。複数の辞書・参考書を利用のこと。

年間授業計画

進捗度に合わせ教材の順で進める。

科目名	地域文化論 iv (中東)
担当者	高橋正男

講義の目標

歴史・民族・宗教(ユダヤ教・キリスト教・イスラーム)をキーワードとしてオスマン帝国の成立(13世紀末-)から第一次世界大戦を経て現在に至るまでの中東諸国の複雑な変遷を講述する。

受講生各自の自作の中東諸国地図必携。

講義概要

中東の地理的範囲は時代によって広狭の差がある。東はアフガニスタンもしくはイラン、西は大西洋に面した北アフリカのモロッコもしくはモーリタニア、北はトルコの黒海沿岸、南はウガンダと国境を接しているスーダン南部、緯度でいえば北は北緯 42° 我が国の函館あたり、南は北緯 3° の赤道直下。中東諸国はアラブ諸国(22 箇国)と非アラブ諸国(4 箇国)から成っている。同地は宗教と政治は種々のレベルで緊張関係にある。殆どの国境は歴史的正当性を持たず、その領域は不透明、これが中東地域研究の出発点である。

テキスト

- ・立山良司編『中東』(第 2 版)自由国民社、1998 年。
- ・臼杵陽著『中東和平への道』(世界史リブレット 52) 山川出版社、1999 年。
- ・高橋和夫著『アラブとイスラエル - パレスチナ問題の構図 - 』(講談社現代新書 1085) 講談社、2000 年。

参考文献

- ・『イミダス』(2001 年版) 集英社。
- ・『現代用語の基礎知識』(2001 年版) 自由国民社。
- ・中岡三益著『アメリカと中東 - 冷戦期中東国際政治史 - 』中東調査会、1998 年。
- ・木村靖二著『二つの世界大戦』(世界史リブレット 47) 山川出版社、1999 年。
- ・牟田口義郎著『アラビアのロレンスを求めて - アラブ・イスラエル紛争前夜を行く - 』(中公新書 1499) 中央公論新社、1999 年。
- ・その都度紹介する。

評価方法

・出席点と学年末のレポートもしくは筆記試験による。

受講者への要望

- ・国際ニュースの把握に努めてほしい。

- ・少人数の場合はゼミナール形式で行なう。
- ・講義資料は出席者にのみ配布する。
- ・必要に応じてビデオ教材使用。

年間授業計画

1. 中東との出会い
2. 中東概観、中東地域概念
3. 中東の民族と宗教(1)
4. 中東の民族と宗教(2)
5. 中東の民族と宗教(3)
6. 日本の中東外交
7. イスラーム原理主義
8. 近代中東とアラブ民族主義
9. オスマン帝国の興亡
10. トルコの内外情勢
11. ペルシア湾岸諸国
12. イラン(1) - 近代イランの成立 -
13. イラン(2) - イラン・イラク戦争 -
14. パレスティナ問題(1) - ツォオニズムの展開
15. パレスティナ問題(2) - 英委任統治の開始
16. パレスティナ問題(3) - イスラエル建国とパレスティナ民族主義
17. パレスティナ問題(4) - 中東戦争
18. パレスティナ問題(5) - パレスティナ暫定自治と今後の課題
19. 国家・民族・アイデンティティ
20. 中東の石油と経済
21. ポスト冷戦期中東と世界
22. 日本の中東政策

科目名	地域経済論 i (ラテンアメリカ)
担当者	今井圭子

講義の目標

ラテンアメリカはアジア、アフリカとともに発展途上地域に加えられ、政治経済社会の諸側面において様々な低開発の問題を抱えている。この地域は19世紀前半に独立期を迎えたが、それに先立つ3世紀余りの長期にわたって植民地支配を受け、その間に形成された政治経済社会構造の遺制が、今日この地域の発展を阻害する重大な要因の一つになっている。本講義ではラテンアメリカの政治経済と社会について、まずその歴史的変遷過程を辿り、同地域をめぐる国際関係を考察し、さらに現在同地域が抱える主要な政治経済社会問題について考える。

講義概要

ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア・アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・文化を概観する。さらに同地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下での政治経済社会の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在同地域が抱えている主要な政治経済社会問題を分析し、その根源を探る。次いでラテンアメリカをめぐる国際関係を分析し、日本と同地域との歴史的関係を辿りながら今後の両者の関係のあり方について考える。授業は講義形成、ディスカッション、ビデオ放映、スライド映写などの方法を使って進めていく。

テキスト

国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 1998年

参考文献

- ・国本伊代著『概説ラテンアメリカ史』新評論 1992年
- ・水野一編『日本とラテンアメリカの関係』上智大学イベロアメリカ研究所 1990年
- ・今井圭子著『アルゼンチン鉄道史研究 - 鉄道と農牧産品輸出経済』アジア経済研究所 1985年
- ・今井圭子・堀坂浩太郎・斎藤淳『民主化と経済発展 - ラテンアメリカ ABC 三国の経験』上智大学国際関係研究所 1997年
- ・グスタボ・アンドラーデ/堀坂浩太郎編『変動す

るラテンアメリカ社会』彩流社 1999年・国本伊代編『ラテンアメリカ 新しい社会と女性』新評論 2000年

評価方法

授業中に何回かリアクション・ペーパーを提出してもらおう。

学期末に筆記試験、以上を合わせて評価する。

受講者への要望

授業では多岐にわたる内容をわかり易く講義することをめざすので、受講者は授業に出席し、不明な点、納得できない点はどしどし質問すること。

年間授業計画

1. 序 ラテンアメリカの概観 - ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較の視点について要約した後、ラテンアメリカの自然、住民、文化、宗教について概観する。
2. 序 (つづき)
3. 第1章 ラテンアメリカ経済史 第1節 時期区分 世界経済史と対比しながら、ラテンアメリカ経済史の時期区分について述べる。
4. 第2節 植民地以前の時期 (~15世紀末) コロンブス一行到来前の先住民社会について概観し、アステカ、マヤ、チブチャ、インカの各先住民社会、文明について考察する。
5. 第3節 植民地期 (15世紀末~19世紀初め) ラテンアメリカの植民地化の過程、植民地政策、植民地支配の下での先住民社会の変容について説明する。
6. 第3節 (つづき)
7. 第4節 独立期 (19世紀初め~19世紀半ば) 独立運動高揚の国際的および国内的要因をおさえ、独立運動の思想、担い手、独立闘争の進展過程について説明する。
8. 第4節 (つづき)
9. 第5節 第一次産品輸出経済確立期 (19世紀半ば~1929年) 独立後の国家建設と経済開発をめぐる政策について解説し、第一次産品輸出経済が確立されていく過程を辿る。
10. 第5節 (つづき)
11. 第6節 工業化から地域協力に至る時期 (1929年~現在) 1929年大不況がラテンアメリカの政治経済に与えた影響について考察し、ラテンアメリカ諸国の対応策を論じ、第2次世界大戦後の工業化に言及する。
12. 第6節 (つづき)
13. 第2章 ラテンアメリカ政治経済社会の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済

社会問題を経済成長と所得分配、雇用問題、貧困、経済構造、金融問題、経済開発と政治体制、環境問題、ジェンダー（女性問題）、人種と社会階層、対外関係などにまとめて解説し、その対策について考える。

14. 第2章（つづき）

15. 第2章（つづき）

16. 第2章（つづき）

17. 第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論

ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論（プレビッシュ理論、従属論、構造学派、レギュラシオン学派、新経済自由主義など）をとりあげて説明し、コメントを加え、その有効性について論じる。

18. 第3章（つづき）

19. 第3章（つづき）

20. 第4章 日本とラテンアメリカの関係 日本とラ

テンアメリカの関係を、移民、貿易、投資、援助、外交関係に分けて解説し、今後のあり方について考える。

21. 第4章（つづき）

22. 第4章（つづき）

23. 第4章（つづき）

24. まとめ

科目名	地域経済論 ii (アジア)
担当者	森 健

講義の目標

世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も、深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることが確認できる場合が多い。この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、この 2 - 30 年の間に自由貿易主義と多文化主義社会化の政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策変更を採用するに至った要因を分析する。

講義概要

近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力会議 (APEC) の結成を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する国であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口 (自然条件、歴史的条件、文化、政治・社会体制、経済条件など) から解明する。

テキスト

竹田いさみ、森健 (共編)「オーストラリア入門」、東京大学出版会、1998 年。および、これを補完するプリント (特に前期)。

参考文献

- ・ジェフリー・ブレイン著、加藤めぐみ・鎌田真弓訳、「オーストラリア歴史物語」、明石書店、2000 年。
- ・関根政美著、「多文化主義社会の到来」、朝日新聞社、2000 年。
- ・竹田いさみ著、「物語オーストラリア」、中公新書、中央公論新社、2000 年

評価方法

- 前期：定期試験
- 後期：定期試験

受講者への要望

他の国の経験を知ることで、社会現象を多面的に、相対的に見る眼が養われること (複眼的思考) を期待しています。

前期授業計画

1. ビデオを使ったイントロダクション
2. 講義内容の総括的な説明
3. 歴史 (1): 囚人労働とステープル産業としての羊毛産業
4. 歴史 (2): 流刑制度をめぐる問題
5. 歴史 (3): ゴールド・ラッシュとその影響
6. 歴史 (4): 仲間主義、平等主義、綱領なき社会主義
7. 歴史 (5): 1860 年代から 1880 年代にかけての長期高度成長
8. 歴史 (6): 1890 年代の恐慌と連邦結成
9. 歴史 (7): 保護貿易主義と中央集権的賃金決定制度
10. 歴史 (8): 経済ナショナリズムの形成
11. 文化 (1): エトス、アイデンティティ、アボリジニ
12. 文化 (2): ヒーロー、文学テーマ

後期授業計画

1. 社会 (1): 多文化社会化
2. 社会 (2): 多文化社会化の悩み (1)
3. 社会 (3): 多文化社会化の悩み (2)
4. 社会 (4): 労働、社会制度
5. 政治 (1): 政治構造と制度; 80 年代以前の基本政策
6. 政治 (2): 80 年代以降の政策変更
7. 外交・安全保障 (1): 冷戦時代
8. 外交・安全保障 (2): 冷戦末期以降
9. 経済構造の特色: 輸入代替工業化とオランダ病
10. 経済政策
11. 貿易と投資
12. 日豪経済関係

科目名	地域経済論 iii (中国)
担当者	全 載 旭

講義の目標

今日の世界経済において、東アジアの重みが増え、ますます増している。なかでも、中国の動向は、21世紀の世界経済の新たな秩序の形成を左右する最大のファクターの1つである。中国のWTO加盟は、短期的には、国有企業の倒産、失業の増加など、否定的な影響を国内に及ぼすであろうが、長期的には産業構造の高度化、競争力の強化、市場開放の拡大などによって改革・開放が加速化され、ひいては経済成長を促進するものと思われる。この授業では、東アジア全体に目を配りつつ、中国经济を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な連関をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたいと思う。

講義概要

下記のテキストを用い、東アジアの中での中国经济の歴史、発展可能性などを学ぶ。中国において1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めて行きたい。

必要に応じて新たなテーマについて議論する。

テキスト

渡辺利夫、加藤弘之、白砂堤津耶、文大宇『図説 [第2版] 中国経済』日本評論社、1999年

参考文献

渡辺利夫、小島朋之、杜進、高原明生『毛沢東、鄧小平そして江沢民』東洋経済新報社、2000年

評価方法

前期：筆記試験を行う。

後期：筆記試験を行う。

受講者への要望

中国の経済システムは通常の資本主義国とは異なるところがあるので、中国经济の状況を実態にそくして理解するためには、テキスト及び参考文献を事前に読んで授業に出席してほしい。

前期授業計画

1. 中国及び中国人
2. 改革・開放以前における中国の計画経済
3. 改革・開放以降における中国经济の発展
4. 人口動態(1) 人口移動のコントロール
5. 人口動態(2) 人口流動化に伴う都市問題
6. 農業発展(1) 農業部門における生産性の向上

7. 農業発展(2) 人民公社の解体
8. 郷鎮企業(1) 社隊企業との違い
9. 郷鎮企業(2) 農村工業化
10. 工業発展(1) 重工業育成政策
11. 工業発展(2) 非国有企業の発展
12. 中国のWTO加盟と東アジアの経済協力

後期授業計画

1. エネルギーと交通・運輸 インフラストラクチャー部門のボトルネック
2. 財政と金融(1) 国家財政の構造
3. 財政と金融(2) 金融改革
4. 地域発展(1) 不均衡成長理論
5. 地域発展(2) 西部大開発戦略
6. 貧困と環境 絶対的貧困層の減少と環境破壊
7. 貿易と直接投資(1) 輸出・輸入構造の変化
8. 貿易と直接投資(2) 直接投資の構造
9. 華南経済圏(1) 台湾
10. 華南経済圏(2) 香港
11. 華南経済圏(3) 中国の広東省とマカオ
12. 21世紀における中国经济の行方

科目名	比較社会論
担当者	井上兼行

講義の目標

文化や民族はそれぞれ独自の社会関係のあり方、それについての認識の仕方をもっている。ここでは私の研究対象であるカリブ海社会と私自身の担う日本社会とを軸に他の社会も取り上げ、比較を通してつづつ各社会の特徴を理解しようとする。

講義概要

カリブ海域社会、日本社会、及びその他の社会について、家族、血縁、地域社会、階層といった関係や集団の種々相を取り上げ、比較考察し、それぞれの特徴を考えていけるように講義をし、また、文献を読んでもらえるようにしていきたい。

テキスト

なし。

参考文献

随時紹介する

評価方法

登録者の数による。少数ならレポート、多数なら試験、両方やる場合もある。

受講者への要望

カリブ海域社会について、歴史その他ある程度の知識をもっていることが望ましい。

科目名	地域研究特殊講義 A (森林地域における風土と生活)
担当者	犬 井 正

講義の目標

本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発様態を参考にして、人間と風土との関わりを明らかにしていく。

講義概要

熱帯雨林を取り上げ、熱帯林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を地理的視点から考察する。また、熱帯林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境 NGO などのこれまでに果たしてきた役割について考察する。

テキスト

未定

参考文献

- ・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会
- T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館
- 四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス

評価方法

定期試験等による。

受講者への要望

継続的に受講すること。

年間授業計画

- 1 本講義を受講するにあたっての心構えと、講義方法・講義内容についてのオリエンテーション。
- 2 一次生産者としての森林の重要性。
- 3 世界の森林・日本の森林 - 温量指数と乾燥指数。
- 4 熱帯林地域の自然環境の特質。
- 5 熱帯林の森林としての構造 - 熱帯雨林と季節林。
- 6 マングローブ林の生態。
- 7 熱帯林の動植物と食物連鎖 - 生物学的多様性。
- 8 熱帯雨林の土壌。
- 9 熱帯雨林の生態と環境保全機能。
- 10 熱帯林の開発の過程と破壊の核心地域。
- 11 様々な開発形態と開発速度。
- 12 薪炭材の生産と伝統的な焼畑耕作。
- 13 人口爆発と集落再編計画。
- 14 商業的木材生産による森林破壊。

15 プランテーション経営と牧畜業。

16 ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。

17 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。

18 熱帯雨林破壊による気候変化と地球の温暖化。

19 熱帯雨林破壊の経済・環境・文化の損失。

20 熱帯雨林における「森林の民」の苦境と森林文化の崩壊。

21 熱帯林破壊をくい止める可能な解決策。

22 持続可能な森林利用 - エコツーリズムの試み - 。

23 森林の民から学ぶべきこと - NGO の架け橋。

24 まとめ 再考：人間と自然のかかわり。

科目名	地域研究特殊講義 A (カリブ海域の民俗と文化)
担当者	井上兼行

講義の目標

私の研究対象であり、実地調査も行っているカリブ海域社会について概括的な知識を得ると同時にその特質を知る。

講義概要

カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その基礎の上に社会・文化が築かれている。そこでまず歴史をある程度時間をかけて明らかにする。そのあと複雑な民族構成、民族間の関係を述べ、さらにカリブ海域の特徴とされるクレオール語を中心とした、複雑な言語及び言語構成についても言及する。その間、できる限り脈絡に沿ったビデオを見てもらったり、簡単な外国文献を読んでもらったりすることを考えている。

テキスト

なし

参考文献

随時紹介する。

評価方法

登録者の数にもよる。少数ならレポート、多数なら試験、両方やる場合もある。

科目名	地域研究特殊講義 A (英国圏のエスニック・ヒストリー)
担当者	佐藤唯行

講義の目標

英語圏のエスニック・ヒストリー

英国を中心に、その他英領西インド諸島や南アフリカにおける人種関係史を学び、これまで見てこなかった英国社会の特質を解明する。

講義概要

1 回から 12 回までの講義は下記テキストを使用し
て行う。13 回以後はテキストはありません。尚、17
- 19 回の三回分は講義形式ではなくビデオの合評会
形式で行う。

テキスト

『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年講談社選書
1500 円）

評価方法

評価は前後期各 1 回の筆記試験とビデオの感想文
(枚数不問)によって決定する。課題ビデオの選定
は受講者の顔ぶれをみて決める。尚、出席をとるか
とらないかも受講者の人数をみて決めたい。

年間授業計画

- 1.(儀式殺人告発の神話)キリスト教ヨーロッパ世界最古の儀式殺人告発である 1144 年のノーリッジで発生した「聖ウイリアムの殉教」を検証し、中世英国ユダヤ人史を研究する意味を確認する。
- 2.(中世英国のユダヤ人社会)ノルマン征服後、英国に成立したユダヤ人社会の特質を同時代の大陸との比較の中で明らかにする。当時の反ユダヤ主義的筆致の絵画史料も解説する。
- 3.(ユダヤ人と非ユダヤ人の関係史)中世英国の主要な社会集団である諸侯・騎士、教会、都市とユダヤ人との個別の関係を探る。
- 4.(ユダヤ人金融の潜在的機能)中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果してきた事を史料的に解明し、1290 年に行なわれたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。
- 5.(英国ユダヤ人史の中間時代)1290 年の全面的ユダヤ人追放から 1656 年に再入国が許される迄の 366 年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。
- 6.(千年王国思想とユダヤ人再入国)ピューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想で

あった千年王国思想がクロムウエル政権下の 1656 年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役割を検証する。

- 7.(17 世紀英国のユダヤ人社会)17 世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。
- 8.(18 世紀英国のユダヤ人社会)上層、中流上層のユダヤ人の中で 18 世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。
- 9.(19 世紀英国のユダヤ人社会)ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって 18 世紀末から 19 世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。
- 10.(世紀転換期のユダヤ人社会)1880 年代から始まる推定 30 万人もの貧しい東欧系ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。
- 11.(20 世紀前半のユダヤ人社会)両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。
- 12.(現代英国のユダヤ人社会)ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日の諸問題について検討する。
- 13.(奴隷貿易とユダヤ人)17-8 世紀における環大西洋地域最大の営利事業にユダヤ人はどうかかわったのか。人口に膾炙した反ユダヤの神話を論破する。
- 14.(南アフリカのユダヤ人)南阿最大のビジネス、ダイヤモンド採掘とユダヤ人との関係。アパルトヘイトをめぐる彼等の態度と白人多数派の対応の違いを分析。
- 15.(在英黒人史その 1)
- 18-19 世紀を中心にアメリカの奴隷制との比較の視座のもとに検討
- 16.(在英黒人史その 2)
- 20 世紀初めから今日まで、とりわけ黒人暴動とそれを生み出した背景を探る。
- 17.(映画で学ぶ英国ユダヤ人問題)
「炎のランナー」を素材として 1920 年代英国の大学を舞台とするユダヤ人・非ユダヤ人の関係を探る。

18.(映画で学ぶ英国黒人問題)

「祖国と女王のために」を素材として1980年代英国における黒人問題を考える。

19.(映画で学ぶアイルランド問題)

「ナッシング・パーソナル」を素材として1970年代北アイルランドにおけるカトリック系住民とプロテスタント系住民との対立を考える。

20.(在英アイルランド系移民問題その1)

21.(在英アイルランド系移民問題その2)

22.(在英アジア系移民問題その1)

23.(在英アジア系移民問題その2)

24.(在英アジア系移民問題その3)

科目名	地域研究特殊講義 A (地中海世界の歴史)
担当者	古川 堅治

講義の目標

本講座は「地中海世界の歴史」と銘打ち、新しい21世紀以降の人間の文明の歴史の行く方とその意味を問うべく、これまで大きな役割を果たしてきた地中海地域世界の歴史を総括することを目標とする。これまで地中海地域は古代のエジプト文明やギリシア・ローマ文明の展開、またイスラム文明との出会いの場、また、近代ヨーロッパ文明の一環を荷うものとして人間の歴史にとって大きな役割を果たしてきた。そのような歴史の舞台としての「地中海世界」の意味を考えてみたい。

講義概要

講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画・LDなどもできるだけ使って理解を深めることに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出るのが期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアト・ホームな雰囲気の小じんまりとしながら進めていく。

テキスト

特に、使用することはない。

参考文献

第一回目の授業の際、参考文献一覧表を配布する。

評価方法

定期レポートと数回の小レポートで評価、テーマ、
✂切日、枚数等については授業中に提示。

受講者への要望

歴史が不得意であったとか、これまで学んだことが多かったという人も関係なく、歴史に興味関心のある人で、その重要性を痛感している人ならだれでも歓迎。

年間授業計画

1. はじめに：地中海世界への視点
2. ~3. 古代地中海の多様性と統一化
ギリシア・ヘレニズム世界と東方世界
ローマ支配の拡大と東方・北アフリカ世界
4. ~5. 古代帝国の解体と地中海世界の変容
属州ガリアと元首政
ローマ帝国における異教とキリスト教
6. ~7. キリスト教世界の巡礼

中世のローマ巡礼

中世のサンチャゴ巡礼と民衆信仰

8. ~9. イスラム世界の巡礼

メッカ巡礼とイスラム改革運動

現代モロッコの廟参詣

10. ~11. 親族関係と移民

古代ギリシア・ローマの家と親族関係

オスマン朝へのユダヤ教徒移民

12. ~13. 人的結合と社会運動

イスラムのスーフィー教団と「多神教」

ギリシア独立戦争と義賊

14. ~15. 商業ネットワーク.

ローマ時代の商業と商人のネットワーク

レヴァントのフランス商人

16. ~17. 国歌と社会経済システム

近代サラエボのムスリム名士と農民

近代アレクサンドリアの憂愁

18. ~20. 都市における救貧と福祉

12世紀コンスタンティノープルの帝国病院

イスラム世界の宗教寄進制度

地中海と疫病

21. おわりに：歴史の場として地中海世界の未来
(その他「映画」が2~3回分入る)

科目名	地域研究特殊講義 A (アラブ文化・芸術)
担当者	本 田 孝 一

講義の目標

本講義では、アラブ文化、特にアラブの芸術を中心に、その特性を考えることを目的とします。またある意味で両端にあるともいえる日本文化とアラブ文化との対比を通して、21世紀の国際化時代の中で異文化間でどう共生していかなければならないかを考えます。

講義概要

講師の長年にわたるアラブとの関わり、特に講師のアラビア書道家としての活動を通して得た体験を中心に話します。授業には映像(ビデオ、スライド等)を多用する予定。

テキスト

特にありません。

評価方法

初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。(できたら、それを受講生全員参加の作文集として一冊の本にまとめて印刷する予定です。有料)

受講者への要望

本講座は人数的に多いことを望みません。具体的にはオリエンテーションの最初の時間に教室(中教室)の席に座れる人数(60名くらい)だけを原則とします。受講したい人はその時間に早めに来て座って下さい。

年間授業計画

1. Introduction
2. アラブ全体について、「アラブとは何か」を考えます。
3. アラブの言語であり、イスラム教の言語でもあるアラビア語について考察します。
4. アラブの衣食住研究(1)
5. アラブの衣食住研究(2)
6. アラブの衣食住研究(3)
7. アラブ文化の源である砂漠的文化について、その住民であるベトウインの生活を紹介します。
8. 講師のサウジアラビア砂漠での体験を話します。
9. アラブの芸術全体について、その特性を考えます。
10. アラブの宗教である「イスラム教」について、その誕生の意味や教義について講師の実体験からお話します。
11. 映画「アラビアのロレンス」を観ながらアラブと西欧の考え方の違いを探ります。

12. 「アラビアのロレンス」の中でロレンスの実像と虚像を探り、彼のアウトサイダー的側面を考えます。
13. アラブ芸術の中で最も中心的な位置を占めているアラビア書道芸術の入門(1)
14. " (2)
15. " (3)
16. アラブの装飾美術(トルコやペルシャの細密画など)を鑑賞し、それが持っている意味を探ります。
17. エジプト映画「バイナル・カスライン」(エジプトのノーベル賞受賞作家の小説)を観ながらアラブ社会のあり方を考察します。(1)
18. " (2)
19. アラブの音楽について、その代表的な楽器ウードの演奏を聴きながら考察します。
20. 今世紀が生んだアラブ文学の異色作家、詩人であるハリール・ジブラーンについて、彼の代表作『プロフェット』(預言者)を通して紹介します。(1)
21. " (2)
22. アラブと関わりの深かった『星の王子さま』の著者、サン・テグジュペリについて、彼の代表作の一つ『人間の大地』を通して考察します。
23. 受講生の作文集作成の準備。
24. まとめ。講師自身のアラブとの書道芸術を通しての将来的関わりをお話します。

科目名	地域研究特殊講義 A (東西文化を結ぶもの)
担当者	三 本 茂

講義の目標

ヨーロッパなどの「西洋」とアジアとしてひとまとまりに扱われる「東洋」との間には、「中洋」と呼ばれるべき広大な地域があり、独自の文化を持っている。これらのインドおよびイスラム文化圏についての知識を加えて、我々のヨーロッパやアジアについての理解は確実なものになるであろう。今回は、中洋のうちからインドおよびネパールの両文化圏と、仏教を介して密接な関連性を持つチベットを取り上げる。

講義概要

インド、ネパール、チベットの歴史の概要を述べ、それぞれの文化の特徴について現地で記録したビデオによって解説する。次いで、各地域を結び付けている宗教として仏教を取り上げ、その伝搬を通じての文化の交流過程について述べる。最後に、中洋の文化の影響がどのような形で我々の日常生活に認められるかについて触れる。

テキスト

なし。

参考文献

辛島昇監修：『インド』（新潮社）

評価方法

前期：レポート提出 後期：筆記試験

受講者への要望

質問など積極性を求める。

年間授業計画

インドの歴史・社会構造・宗教・庶民の暮らし（衣食住）

ネパール 同上

チベット 同上

各6回

日本と各文化とのつながり 4回

科目名	地域研究特殊講義 A (ラテンアメリカのキリスト教)
担当者	中 島 文 夫

講義の目標

今では有数のキリスト教国となっているラテンアメリカ諸国においては、1950～60年代のポピュリズム（人民主義）政権が国民の大多数を犠牲にする従属的資本主義の形で工業発展を推進したことが、社会的・経済的構造の根本的変革を求める強力な大衆運動を呼び起こすことになり、それが軍事的独裁を招く結果になった。このような社会環境の激変の中でラテンアメリカのキリスト教会内部に沸き起こった刷新を目指す潮流から生まれてきた「解放の神学」の概略を理解することを通じて、キリスト教の新しい一面を知る。

講義概要

はじめに、数回の講義において、16世紀以来のスペインおよびポルトガルによる植民地経済の一環として進められたラテンアメリカ諸国のキリスト教化の過程とその後の推移を概観する。

次いで、下記のテキストを講読する。ただし、語法的に細部にこだわることなく、日本語を参考にしながら全体的に理解することを目指す。

質疑応答と議論を伴うゼミ形式になるようにと願っている。

テキスト

Leonardo & Clodovis Boff: *Introducing Liberation Theology*, translated from the Portuguese by Paul Burns, Orbis Books.

参考文献

レオナルド・ボフ、クロドビス・ボフ著（大倉一郎、高橋弘訳）『入門・解放の神学』（新教出版社、新教ブックス）

テキスト及び参考書は担当者が手配する。

評価方法

未定（履修者の数によって、相談で決める）

学生への要望

必ず準備の予習をして休まず出席し、積極的に参加する人を望む。

年間授業計画

（省略）

科目名	比較文化論特殊講義 A (英国人と日本人の生き方の比較)
担当者	有 吉 広 介

講義の目標

現代人における英国人の生活文化あるいはライフスタイルと、日本人のそれらとを社会学的なアプローチによって比較研究する。

講義概要

まず、階級構造に基礎を置く英国の多様な階級的文化、ライフスタイルを明かにする一方、日本では、階層構造の戦後における変化が日本人のライフスタイルを相対的に標準化してきたが、近年階層分化をすすめる傾向があることを説明する。次に、両国における教育制度がそれぞれの独特な学歴主義を発達させる過程を問題にする。第 3 に、両社会における家族生活の類似点と相違点を社会構造および文化構造と関連させて考察する。加えて、二つの社会における性役割の問題に絞る。

テキスト

プリントを配布する。

参考文献

適時紹介

評価方法

前期および後期の終りに提出してもらったレポートを評価する。

受講者への要望

まず出席して説明をよく聞くこと

年間授業計画

1. 講義の概要の説明
2. 英国社会の近代化・産業化
3. 同
4. 日英の家族構造の比較
5. 同
6. 英国における家族の階級的性格
7. 近年における家族の多様化
8. 日本の近代化と教育構造
9. 同
10. 英国の教育構造
11. 同
12. 社会的・文化的再生産
13. 日本社会の階層構造
14. 同
15. 英国の階級構造の概観
16. 20 世紀における英国の階級構造の変化
17. 同

18. 英国の労働階級のライフスタイルの変化
19. 同
20. 英国のミドルクラスの構造的多様性
21. 英国のミドルクラスのライフスタイル
22. 英国の上流階級の社会構造と文化
23. 補足事項
24. まとめ

科目名	比較文化論特殊講義 A (東西文化比較)
担当者	近 衛 秀 健

- 6 . 同上
- 7 . 同上
- 8 . 同上
- 9 . 同上
- 10 . 同上
- 11 . 同上
- 12 . 同上
- 13 . 同上
- 14 . 同上
- 15 . 同上
- 16 . 同上
- 17 . 同上
- 18 . 同上
- 19 . 同上
- 20 . 同上
- 21 . 同上
- 22 . 同上
- 23 . 同上
- 24 . 同上

講義の目標

東西というのが、今の日本の立場はそのどちらでもない奇妙な存在である。明治時代、彼等の生活を先進と見做し、ひたすらこれに近付きあわよくば追越そうとした結果が現日本である。他の未だ自国の伝統ある文化を捨てかね、西欧様式の取り込みをためらっているアジア諸国と比べ優越感にひたったりする事が文化論ではあるまい。現在われわれは大きなディレンマに立たされている。事実の分析により明日の生活の資となるような材料を見つけようではないか。

講義概要

対象が二つあれば比較できる。"何か"とそれを観察している自分とで二つである。毎日の新聞の記事、過剰なまでのTV情報に対し、自分が向かいあう。思索により結論がでてくる。千年前の"何か"と現在の自分、一万キロ彼方の"何か"と現在位置にいる自分、何ごとと比較できないものはない。今の日本人は西洋人でも東洋人でもない。乱れとぶ情報に流されず自分の居場所を確保する方法を考えてみよう。

テキスト

随時配布。

参考文献

世に参考にならぬ文献など存在しない。しかし全員がこれを読み、それに依って思索乃至行動するなら蟻の集団と変わらない。質問に応じ、読みたい人、調べたい人にはヒントを与えよう。

評価方法

自分自身の思考能力を問うため、年二回のレポートを課します。又、随時何か書いてもらいます。

受講者への要望

「これは語学習得などの段階的学習ではない。常に諸君は私と向い合い毎時限私と対決する気持でいて欲しい。

年間授業計画

- 1 . 毎日の情報や、書物の抜粋を材に色々と考えてみる。その内容については情勢の変化に応じ予測できない。
- 2 . 同上
- 3 . 同上
- 4 . 同上
- 5 . 同上

科目名	比較文化論特殊講義 A (ラテンアメリカとアメリカ合衆国)
担当者	佐藤 勘治

講義の目標

アメリカ合衆国におけるラティーノ（ラテンアメリカ系住民）人口は、まもなく黒人人口を超え、最大のマイノリティーになるといわれている。メキシコにおいても、1994年「北米自由貿易協定」発効以降、アメリカ合衆国との経済関係は一体化が急激に進んでいる。同じ新世界に登場した二つの文化は、全く質を異にするものと考えられているのが普通だが、その違いはどのように創られたのだろうか。また、この二つの文化は、融合していくのだろうか。米国とラテンアメリカの関係史を論じることで、上記の問題を考えたい。

講義概要

前半では問題意識の共有をはかるため導入の授業をおこなった上で、米国とラテンアメリカとの関係を歴史的に概観していく。後半では、メキシコと米国の国境地帯形成史を論じ、文化共存、文化融合について、受講者とともに考えたい。授業では、ビデオ映像、音楽、新聞記事などを使って、受講者の知識の補強をはかるほか、参加型の授業にしたいと思う。前期地域文化論ⅰでおこなうラテンアメリカ・ウォッチをこの授業でも随時レポートしてもらおう。また、スペイン語文献、英語文献、邦語文献のリーディングレポートも随時課す。受講者数にもよるが、ゼミ形式としたい。

テキスト

プリントを用意する。

参考文献

授業で文献目録を配布する。

評価方法

授業中の発言、授業での発表およびレポート

年間授業計画

1. (導入1) シラバスの説明
2. (導入2) 「ラテンアメリカ」と「アメリカ」
3. (導入3) 米メキシコ国境地帯の現状 / ビデオ「米国の言語事情」スパングリッシュなど
4. (導入4) プエルトリコ = 米国の内なるラテンアメリカ
5. 文献購読 (邦語、スペイン語)
6. 文献購読 (邦語、スペイン語)
7. 米・ラテンアメリカ関係史1 米西キューバ戦争 / カリブ海での覇権

8. 米・ラテンアメリカ関係史2 パナマ建国と運河建設 / キューバ革命と米国
9. 米・ラテンアメリカ関係史3 チリ・ニカラグア革命と米国
11. 米・ラテンアメリカ関係史4 ラテンアメリカからの米国への移民
12. 文献購読 (スペイン語、英語)
13. 米メキシコ国境地帯形成史1 「占領下のメキシコ」: テキサス独立
14. 米メキシコ国境地帯形成史2 米メキシコ戦争 / カリフォルニア・アリゾナの形成過程
15. 米メキシコ国境地帯形成史3 メキシコ北部への米資本進出とアジア系移民
16. 米メキシコ国境地帯形成史4 メキシコ革命と米国: メキシコ性の追求
17. 米メキシコ国境地帯形成史5 「北米自由貿易協定」以後
18. 米メキシコ国境地帯論1 創り出されるメキシコ性: ティファアナとメヒカリ
19. 米メキシコ国境地帯論2 先住民にとっての国境線: アパッチとヤキ
20. 米メキシコ国境地帯論3 アジア系住民にとっての国境線
21. 米メキシコ国境地帯論4 アストランとチカーノ運動
22. 米メキシコ国境地帯論5 ニューメキシコの混合文化とメキシコ北部の米化
23. 文献購読 (邦語、スペイン語、英語)
24. 予備

科目名	国際関係概論
担当者	有賀 貞

講義の目標

- 1 20世紀国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。
- 2 履修者が国際関係史に関連する基本的語彙を習得できるようにする。
- 3 いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。

講義概要

前期には19世紀国際関係の概観から太平洋戦争までの始まりまでを、後期にはそれ以降近年に到るまでを扱う。講義は主として英語で行い、日本語で補足する。講義の英文概要は前もって配布する。年間計画の中の諸項目の題には若干の変更があるかもしれない。

テキスト

授業の際に配布する英文講義概要をもってテキストに代える。

参考文献

参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起源』(みすず書房)、カー『両大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江明『太平洋戦争の起源』(東京大学出版)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス)、W.R. Keylor, The Twentieth-Century World(Oxford university Press, 3rd edition)など。

評価方法

前期後期とも、期末に試験を行うほか、前期にはレポートを1回提出する。評価は二つの試験とレポートを総合して行う。

受講者への要望

今年度は20世紀の国際関係を歴史的に概観します。国際関係の理論的な考察に関心ある人には「国際政治論」を履修することを薦めます。

年間授業計画

(前期)

- 1 . Introduction
- 2 . The Characteristics of 19th-Century International Relations
- 3 . Politics of Imperialism around the Turn of the Century
- 4 . The Outbreak of the First World War

- 5 . The Entry of the United States and the Bolshevik Revolution
- 6 . The Versailles Treaty and Postwar Confusion in Europe and the Middle East
- 7 . The Washington Conference and the Asia-Pacific International Order
- 8 . The Return of Relative stability in Europe
- 9 . The Great Depression and the Collapse of International Political Stability
- 10 . The Berlin-Rome Axis and the Failure of the Appeasement Policy
- 11 . The Outbreaks of the Sino-Japanese War and the Second World War
- 12 . The Road to Pearl Harbor

(後期)

- 1 . Wartime Diplomacy of the Three Major Allied Powers
- 2 . The End of the War and the Development of the Cold War
- 3 . Stabilized Europe and Turbulent East Asia
- 4 . Post-WW South and Southeast Asia
- 5 . The Foreign Policy of the Post-Stalin Soviet Union
- 6 . The Retreat of European Imperialism from the Middle East and Africa
- 7 . Progress in Economic Integration in Western Europe
- 8 . The Vietnam War and the Reorientation of US Foreign Policy
- 9 . The Fourth Middle Eastern War and After
- 10 . The "New Cold War" and the Prosperity of the Capitalist World
- 11 . The Collapse of the Old Order in Eastern Europe and the Soviet Union
- 12 . International Relations in the post-Cold War Era

科目名	国際機構論
担当者	松 田 幹 夫

講義の目標

国際組織への法的アプローチ

講義概要

おもな国際組織のみを重点的に説明する。可能な限り"日本との関係"について述べる。講義ノートが大体できているので、計画どおり進行する。

テキスト

なし。

参考文献

桜井雅夫『国際機構法』のほか、適宜指示する。

評価方法

主として前期および後期試験（論述式）で評価を下す。しかし、日常的に地道な努力を払う学生には、なんらかの形で報いるであろう。

受講者への要望

こつこつノートをとるのみ（人数次第では毎回レジュメを配布する予定）。それに集中すれば、私語も居眠りも不可能。

年間授業計画

1. 序論
2. 国際組織の歴史
3. 国際連盟の成立と解散
4. 国際連盟の構造と機能
5. 委任統治
6. PCIJ
7. 国連の成立
8. 国連加盟国
9. 国連の構造と機能 (1)
10. 国連の構造と機能 (2)
11. 国連の集団安保体制
12. PKO
13. 信託統治と非自治地域
14. ICJ (1)
15. ICJ (2)
16. 世界人権宣言の成立まで
17. 国際人権規約の成立以後
18. 冷戦期からポスト冷戦期にかけての国連
19. NATO
20. 欧州統合への動き
21. 欧州統合の始まり
22. EC から EU へ
23. EU の構造と機能 (1)

科目名	地球環境論（地理学）
担当者	犬 井 正

講義の目標

熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかわり方を考察する。

講義概要

熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTR なども援用しながら講義をすすめる。

テキスト

・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』

1994、農林統計協会

参考文献

・T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』1993、

築地書館

・ジョン・C・クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』

1992、どうぶつ社

・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』

1992、NHK ブックス

評価方法

前期、後期各1回ずつの定期試験による。

学生への要望

特になし。

年間授業計画

1. 本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。
2. 1次生産者としての森林の重要性について。
3. 世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4. 熱帯雨林成立の過程と特質。
5. 熱帯雨林の森林としての構造。
6. 熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7. 熱帯雨林の生態学的多様性。
8. VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9. 熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。

10. 様々な開発形態と開発速度。

11. 薪炭材の生産と焼畑農耕 伝統的焼畑農耕は破壊か？

12. 人口爆発と集落再編計画。

13. 商業的木材生産による森林破壊。

14. プランテーション経営と牧畜業。

15. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。

16. VTR『緑を守る男たち』視聴。

17. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。

18. 熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。

19. 熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。

20. 熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境 アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。

21. VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。

22. 日本の熱帯材輸入と森林破壊。

23. 熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？

24. まとめ 再考「人間と自然のかかわり」

科目名	地球環境論（植物学）
担当者	加藤 信重

講義の目標

近年、問題になっている様々な環境問題についての原論文を輪読し、環境問題を理解すること。

講義概要

身近な環境を理解するため、実際の観察調査も行う。日本語や英語の新聞・雑誌等に目を通す。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらおう

テキスト

使用しない。

参考文献

講義中に必要に応じてコピー配布をする。

評価方法

出席回数、通常のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。

受講者への要望

生物学 A、B、自然科学特講の既習者のための科目である。読書することが苦でない学生に限る。

年間授業計画

14. トピックス の続き、レポート提出
15. 世界の環境問題 3 Silent Spring （輪読する）
16. 世界の環境問題 4 Silent Spring （輪読する）
17. 世界の環境問題 5 Since Silent Spring （輪読する）
18. 世界の環境問題 6 Since Silent Spring （輪読する）
19. Nature Watching 6 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える
20. Nature Watching 7 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える
21. CITES 英文・和文の条文を比較する
22. CITES 英文・和文の条文を比較する
23. Ramsar Convention 英文・和文の条文を比較する
24. Ramsar Convention 英文・和文の条文を比較する
1. 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらおう。
2. Nature Watching 1 キャンパス内の岩石・樹木の英名を覚える
3. 世界の環境問題 1 The Crisis of the Earth （輪読する）
4. 世界の環境問題 2 The Crisis of the Earth （輪読する）
5. Nature Watching 2 草加市内を歩く
6. Nature Watching 3 草加市内を歩く
7. 日本の環境問題 1 Zero Population Growth（輪読する）
8. トピックス 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
9. 日本の環境問題 2 Minamata Disease （輪読する）
10. 日本の環境問題 3 Minamata Disease （輪読する）
11. Nature Watching 4 草加市内を歩く
12. Nature Watching 5 草加市内を歩く
13. トピックス 新聞・雑誌記事を読む

科目名	地球環境論（太陽系）
担当者	福井尚生

講義の目標

我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。一つの星雲から太陽系は誕生しました。諸環境のお蔭で地球上では我々に至るまでの生物の進化が可能でした。では何故可能だったのでしょうか？他の惑星は何故第2第3の地球にならなかったのでしょうか？太陽系の実状を知れば、少しはその訳が垣間見えてくるかも知れません。

地球上では、自然環境の変化に対応しながら生物が進化し人間まで辿り着きました。人間が進化の目的なのか結果なのか、意見が分かれるところですが、人間が諸自然環境のお蔭で存在していることは確かです。本講義の目標は、このお蔭の内容を知り、先を考えるきっかけを得ることにあります。

講義概要

太陽系の定義

仲間達

起源

天体としての地球

テキスト

プリント、視聴覚教材

評価方法

授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題をその都度解答・提出してもらい、書かれてある内容を評価します。

受講者への要望

『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。

科目名	都市・地域計画論
担当者	鈴木 隆

講義の目標

人間の生活の場である都市および地域の現象ならびに計画もしくは政策に関する一般的な理論や方法について学び、さらに、比較論的な視点も踏まえてヨーロッパにおける都市および地域の状況と政策について知る。それらを通して、都市や地域に対する意識を高め、かつ、ヨーロッパの社会や文化についての理解を深める。

講義概要

全体の講義は大きく前半と後半に分かれる。前半においては、都市および地域の現象に関する異なる視点からの研究を紹介しながら、問題や研究方法について学ぶ。後半においては、ヨーロッパにおける都市と地域、およびそれをめぐる政策について学ぶ。

テキスト

なし

参考文献

講義中に適宜、紹介する。

評価方法

試験またはレポートを主たる判断材料とし、出席も考慮する。

受講者への要望

日本と外国の両方における都市や地域の問題に興味をもって臨んで欲しい。

年間授業計画

- 1．都市とは何か。
- 2．～4．都市・地域と人口。
- 5．地域の構造。
- 6．都市の構造。
- 7．～8．土地の価値。
- 9．～10．景観とイメージ。
- 11．～12．都市と商業。
- 13．～18．ヨーロッパの都市と地域。
- 19．～24．ヨーロッパの都市計画・地域政策。

なお、以上の年間計画には多少の変更がありうる。

科目名	国際経済論
担当者	千代浦 昌 道

講義の目標

経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば、健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。

講義概要

前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

総務庁統計局編『2001世界の統計』(大蔵省印刷局、2000)

西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学(新版)』(有斐閣、1997)

E. F. シューマッハー『スモールイズビューティフル』(講談社、1986)

C. キンドゥルバーガー、B. ヘリック『改訂 経済発展論』(好学社、1981)

M. トダロ『M. トダロの開発経済学』(国際協力出版会、1997)

TODARO, Michael P., "Economic Development; 7th edition", Addison Wesley Longman, Inc. 2000.

評価方法

前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。

受講者への要望

新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。

年間授業計画

1. 経済開発論の基礎的概念(経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度)
2. 発展途上国の基本問題(発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存)
3. 発展の非経済的側面(経済発展の政治的側面、経済発展の社会的・文化的要因、発展の社会学的把握)

握)

4. 発展の非経済的側面(家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展)
5. 発展の非経済的側面(開発と女性の役割、発展途上国の環境問題)
6. 先進工業国経済発展の教訓(先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化)
7. 先進工業国経済発展の教訓(ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化)
8. 人口と経済開発(人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策)
9. 雇用と失業(発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用)
10. 教育と発展(教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困)
11. 教育と発展(教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発)
12. 都市と農村(発展途上国の都市と農村、農村都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門)
13. 経済発展のモデル(古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド=ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説)
14. 経済発展のモデル(新古典派の成長モデル、チエネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ=シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整)
15. 農業と開発(農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発)
16. 工業化と開発戦略(均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果)
17. 貿易と発展(絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出促進工業化)
18. 貿易と発展(南北問題とプレビッシュ=シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序)
19. 貿易と発展(自由貿易とNIESの発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展)
20. 多国籍企業と発展途上国(直接投資の利益、多国籍企業についての利害損失、新国際経済秩序と多国籍企業)
21. 国際収支と債務問題(国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態)
22. 発展途上国債務問題への国際的対応(世銀・IMF)

の融資、債務 = 環境スワップ)

23. 国際援助と経済開発 (途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展)
24. 国際援助と経済開発 (草の根援助と NGO の役割、援助の功罪、これからの国際援助)

科目名	国際政治論
担当者	竹田 いさみ

講義の目標

本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶことになります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。

講義概要

本講義では指定資料集、参考文献、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることになります。メディアで取り上げられる国際問題を適宜取り上げ、短い解説を行うこともあります。そのため、講義の順番は部分的に変更することがあります。

テキスト

講義用資料集

参考文献

有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989）

ヘドリー・ブル『国際社会論：アナキカル・ソサイエティ』（岩波書店、2000）

高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966）

Josephy Nye, Jr., Understanding International Conflict, Second Edition (New York : Longman, 1997)

田中明彦『新しい「中世」：21世紀の世界システム』（日本経済新聞社、1996）

評価方法

評価は定期試験の成績を基本としますが、レポートもしくは中間試験を実施して、最終的な評価をします。

受講者への要望

私語などで警告を受けるとイエロー・カードが1枚。3枚集めると退場となり、翌年に再挑戦となります。

年間授業計画

第1週

冷戦後の世界（資料集：1、4頁）/ 国際関係を見る眼：木・林・森

国際関係の世界：戦争と平和（伝統的問題）/ 繁栄と貧困（南北問題）/ 世界経済ネットワーク、開発・環境・生存

第2週

国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー）

国際関係論：世界大戦の落とし子
（資料集：7頁）

第3週

利害の調整：有限の世界、無限の欲望
（資料集：21-27頁）

政治過程：権力 + 正統性 = 権威
（資料集：47-48頁）

第4週

人間・政治・権力：ホブズ、グロティウス、カント（資料集：52-54頁）

第5週

国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム

意味・単位・構造・過程（資料集：59頁）

第6週

リアリズム（現実主義）：トゥキユディデス～E.H.カー（資料集：67-71頁）

E.H.カー：ユートピアニズム vs リアリズム
（資料集：7-11頁）

勢力均衡論（資料集：91-94頁）

第7週

リアリズム（現実主義論）：ヨーロッパ古典外交の特色

ウィーン会議：「会議は踊る」、「会議はなぜ踊ったのか」メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー

第8週

リアリズム（現実主義）：ビデオ教材「会議は踊る」

る」

第9週

多元主義・相互依存論

(資料集：58、118-142頁)

トランスナショナリズム：EUの出現・パワー論
の補完

第10週

グローバリズム・従属論

(資料集：59、143-171頁)

反欧米思想・南の主張・世界システム

第11週

国際政治と利害調整メカニズム

第12週

まとめ

科目名	国際政治論
担当者	星野昭吉

講義の目標

国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存・生活は国際政治の在り方に大きく依存している。人類が直面しているさまざまな具体的問題、すなわち、核拡散問題はじめ、軍拡競争、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の増大、人口・食糧問題、資源・エネルギー問題、人権抑圧、貧困、餓死、社会的不正義などの地球的規模の問題群を検討する。この巨大で、複雑で、流動的で、不確実な国際政治の危機構造の本質、その特徴、その変容、その打破などを解明する。その上で、国際政治の見方・在り方・考え方を提示し、国際政治における我々の存在意義を明らかにする。

講義概要

今日の国際政治が一体どのような段階にあり、どのような問題を抱えているのか、国際政治が我々の日常生活とどのような関連性をもっているのかを説明しながら、国際政治学の課題を提示する。国際政治の構造的変動としての冷戦崩壊過程とその意義を問いながら、国際政治の新しい枠組みの構造を具体的に見ていく必要がある。そうした問題意識に立って、一方の国際政治（世界政治）を構成する主体（主権国家、国民社会、脱国家主体など）と、他方のそれら主体間で構成される国家間関係システム（国際システム）と脱国家間システムからなるグローバル・システム、という二つの視点から国際政治の本質に迫っていく。

テキスト

・星野昭吉『世界政治における行動主体と構造』
アジア書房、2001年。（予定）

参考文献

・衛藤藩吉他『国際関係論』（第2版）東京大学出版会、1989年。
・初瀬龍平『国際政治学 - 理論の射程 - 』同文館、1993年。
・星野・臼井編『世界政治学』三嶺書房、1999年

評価方法

前期のレポート（書評）、後期のテスト、出欠状況を総合して評価する。

受講者への要望

すべてをテキスト通りにやるのでないので、必ずノートをとってほしい。

年間授業計画

1. グローバル政治の構造と特徴
2. 国際政治学の基本的課題
3. 国際政治の構造的変動 - 冷戦構造の崩壊過程とその意義 -
4. 国際政治の新しい枠組み - 湾岸危機・戦争と世界秩序 - (1)
5. 国際政治の新しい枠組み - 湾岸危機・戦争と世界秩序 - (2)
6. 国際政治の新しい枠組み - ソ連邦の解体とペレストロイカ - (1)
7. 国際政治の新しい枠組み - ソ連邦の解体とペレストロイカ - (2)
8. 国際政治学の発展過程 (1)
9. 国際政治学の発展過程 (2)
10. 国際政治の「主体と構造」の枠組み
11. 国際政治の主体としての主権国家 (1)
12. 国際政治の主体としての主権国家 (2)
13. 国家と民族・文化 (1)
14. 国家と民族・文化 (2)
15. 国家と経済社会 (1)
16. 国家と経済社会 (2)
17. 国家と市民(国民) (1)
18. 国家と市民(国民) (2)
19. 国際政治における脱国家主体 (1)
20. 国際政治における脱国家主体 (2)
21. 国家間関係 (国際システム) の構造 (1)
22. 国家間関係 (国際システム) の構造 (2)
23. 脱国家間関係システム
24. 主体と構造のリンケージ - 構造化理論 -

科目名	国際交流研究特殊講義 A (キリスト教と日本文化)
担当者	中 島 文 夫

講義の目標

日本のキリスト教の教派数は、世界のどの国にも類例を見ないほどではないか。しかし、キリスト教信徒の総数は全人口の僅か 1.6%弱で、決して多いとは言えない。それにもかかわらず、日本文化の中に定着したキリスト教的要素は案外に多い。そこで、日本がキリスト教とどのように関わったかを歴史的に跡づけることによって、キリスト教が日本文化にどのような影響を及ぼしたかを見ようとする。

講義概要

テーマ：「キリスト教と日本文化」

切支丹時代から現代に至るまで、キリスト教諸教派が日本への宣教活動をどのように展開し、日本がそれをどのように受容して来たかを、日本文化に及ぼした具体的影響に留意しつつ歴史的に考察する。

前期のみ、週 2 回の授業となる。

テキスト

使用しない。ただし、講義の概要をプリントにして配布する。

参考文献

講義中に、必要に応じて提示する。

評価方法

期末に、筆記試験またはレポートを課する予定であるが、履修者数にもよるので、具体的には未定。毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚だしく欠席の多い者には単位を与えない。

受講者への要望

特に予備知識を要求しないが、旺盛な知的好奇心を期待する。また、講義者及び同僚履修者に対して、節度あるマナーを心がけてもらいたい。

年間授業計画

1. 序説 1 日本におけるキリスト教諸教派及びキリスト教徒数
- 序説 2 日本文化の中に定着したキリスト教的要素
2. 第 1 章 切支丹の宣教と隆盛(室町時代～織田信長)
 - §1 フランシスコ・デ・シャビエルの渡来
3. §2 相次ぐ宣教師の渡来・宣教
 - §3 九州における有力大名の庇護と教勢の伸長
4. §4 織田信長の優遇政策と畿内における教勢の伸長

- §5 伊達政宗の優遇政策と東北地方への浸透
5. §6 切支丹文化の発達
 - §7 切支丹と茶道
6. 第 2 章 禁教と弾圧の時代(豊臣秀吉～徳川時代)
 - §1 豊臣秀吉の政策 - 寛容から禁圧へ
 - §2 徳川家康・秀忠の政策 - 旧勢力との結合に対する警戒
 7. §3 徳川家光の政策 - 禁教・弾圧・鎖国
 8. §4 迫害と殉教
 - §5 隠れ切支丹
9. 第 3 章 再生と新たな宣教・展開の時代(明治時代)
 - §1 開国とカトリック宣教師の再渡来及び切支丹の復活
10. §2 ロシア正教及びプロテスタント諸教派の渡来
 11. §3 禁教令の廃止
 12. §4 文明開化の波と教勢の伸長
 13. §5 ミッションスクールの果たした役割
 14. §6 社会福祉事業の推進
 15. §7 有力なキリスト者群像(1)
 16. 有力なキリスト者群像(2)
 17. §8 無教会主義の系譜(1)
 18. 無教会主義の系譜(2)
19. 第 4 章 苦難の時代(大正～昭和前期)
 - §1 国粋主義と「外来宗教」に対する反目
 - §2 統制 - 「国策」への協力の要求
 20. §3 「日本基督教団」の形成
 21. §4 抵抗諸教派に対する弾圧
22. 第 5 章 復活と再発展の時代(昭和後期～)
 - §1 外来宣教師による活発な宣教の再開
 23. §2 各界におけるキリスト者の活躍
 24. §3 第二ヴァチカン公会議とエキュニズム